

北大時報

June 2009

No.663

平成21年



**(財)北海道科学技術総合振興
センター(ノーステック財団)と
連携協定を締結**

名誉教授称号授与式の挙行

お知らせ

- カルチャーナイト 2009
「星空とチェンバロの夕べ」



北海道大学病院院内学級を訪れた日本ハムファイターズ選手の皆さん (2009.6.1, 関連記事 23 頁に掲載)

目次

全学ニュース

- (財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)と連携協定を締結……………1
- 平成21年度科学研究費補助金の交付決定—内定額は46億3千万円—……………1
- 平成22年度AO入試学生募集要項の発表……………2
- 平成22年度帰国子女入試学生募集要項の発表……………4
- 名誉教授称号授与式の挙……………5
- 北大フロンティア基金……………6
- 平成20年度北海道大学外国人留学生後援会の決算……………8
- スポーツトレーニングセンターで全天候走路を改修……………9
- 国際シンポジウム「HOKKAIDO UNIVERSITY – MAHIDOL UNIVERSITY JOINT SYMPOSIUM」開催……………10
- 「海外留学説明会」を開催……………11
- 「短期語学研修プログラム説明会」を開催……………12
- 函館キャンパスにて「短期語学研修プログラム説明会」を開催……………13
- 「出入国管理制度説明会」開催……………14
- 遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を実施……………14
- 動物実験実施者等教育訓練を実施……………15
- 平成20年度北海道大学レーン記念賞授与式の挙……………16

部局ニュース

- 公共政策大学院が喜茂別町との連携協定を締結……………17
- 北海道大学病院 北市伸義助教がアルコン研究賞 (ARVO/Alcon Research Award) を受賞……………18
- 第13回全国共同利用情報基盤センター長会議を開催……………19
- 第33回「国立大学アイソトープ総合センター長会議」の開催……………20
- 環境科学院で北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催……………21
- 看護週間—「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施……………22
- 日本ハムファイターズ、北海道大学病院院内学級を訪問!!……………23
- 経済学部で「経済成長とベンチャーキャピタルの役割」をテーマに講演会を開催……………24
- 会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催……………25
- 薬学部第12回生涯教育特別講座を開催……………26
- 薬学部でメンタルケア講習会を実施……………27
- 佐々木隆介関係資料を大学文書館で受贈……………28
- 定山溪中学校修学旅行事前学習を大学文書館で実施……………29

- 「地質の日」記念展示「支笏火山と私たちの暮らし」を開催……………30
- 総合博物館土曜市民セミナー「モンゴルの現状—伝統的な暮らし vs 近代的な暮らし」が開催される……………31
- 総合博物館で土器パラタクソノミスト養成講座(初級)を開催……………32
- 園児たちが毎年恒例の田植え体験……………33

お知らせ

- カルチャーナイト2009「星空とチェンバロの夕べ」……………34

レクリエーション

- 「大人のためのサッカー教室」がスタート……………34

表敬訪問

- ……………35

同窓会との交流

- ……………36

諸会議の開催状況

- ……………37

学内規程

- ……………38

人 事

- 新任教授紹介……………40
- 新任部課長等紹介……………40

訃 報

- 名誉教授 市原 耿民 氏……………41
- 名誉教授 藤本 胖 氏……………42
- 名誉教授 山中 智之 氏……………43

資 料

- 在籍学生数(平成21年5月1日現在)……………45
- 平成21年度外国人留学生数(平成21年5月1日現在)……………47
- 平成21年度国別外国人留学生数(平成21年5月1日現在)……………48
- 平成20年度卒業生・修了者の就職等状況一覧……………49
- 平成20年度科学研究費補助金部局別決定一覧(最終)……………63
- 平成21年度科学研究費補助金部局別内定一覧(5月末現在)……………64

表紙：北海道大学病院院内学級を訪れた日本ハムファイターズ選手の皆さん

裏表紙：北の息吹[®] アポイアズマギク (*Erigeron thunbergii* ssp. *glabratus* var. *angustifolius*)

全学ニュース

(財)北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団)と連携協定を締結

本学は、財団法人北海道科学技術総合振興センター（以下、ノーステック財団）と、6月2日（火）、それぞれが有する情報、人材、ネットワーク、ノウハウなどの資源を融合させ、大学の「知（知識や研究開発の成果）」の実用化・事業化を、道内の企業も参画して着実に推進し、地域経済の活性化や社会貢献を目指していくことを目的として、連携協定を締結しました。

本学で行われた締結式では、岡田理事・副学長より協定の概要についての説明が行われた後、関係者が見守る中、佐伯総長と近藤龍夫ノーステック財団理事長による協定の締結がなされました。

本協定締結により、本学はノーステック財団と、（1）地域や企業及び他大学等との連携・

協働の推進に関する事項、（2）北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会の活動に関する事項、及び（3）人材の交流に関する事項について推進することとしています。



締結式で握手を交わす佐伯総長（左）、
近藤ノーステック財団理事長（右）

(学術国際部産学連携・研究推進課, 産学連携本部)

平成21年度科学研究費補助金の交付内定 —内定額は46億3千万円—

このたび、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会から平成21年度科学研究費補助金の交付内定の通知がありました。

交付内定件数は1,345件で、内定金額は、約46億3千万円（間接経費を除く。）となっています。（5月末現在）

なお、各部局別・研究種目別の内定件数・金額については、資料として本誌64頁に掲載しています。

(学術国際部研究協力課)

平成22年度AO入試学生募集要項の発表

平成22年度AO入試学生募集要項を6月19日（金）に発表しました。
概要は次のとおりです。

趣 旨

AO入試は、受験生の能力や資質を多面的に評価する入試制度です。

北海道大学の理念（フロンティア精神，全人教育，実学，国際性）を実現し，地球社会の未来を拓くパイオニアとして活躍できる素質を持った方を積極的に迎え入れるために実施しています。AO入試では，学力を含めた多様な個性・能力・資質・適性・目的意識や意欲を，提出書類や課題論文また面接によって総合的に評価します。一芸一能入試ではありませんので，基礎学力のあることが条件です。

AO入試を実施する学部・学科（系）の教育内容・求める学生像などをもとに，北海道大学での学生生活を十分理解し，明確な勉学目的と意志を持つ受験生を期待しています。

未来を拓く北海道大学

北海道大学は，世界の平和と繁栄に貢献する学術研究を発展させ，人類社会の未来を拓く創造力と責任ある行動力・指導力に富む人材を育成するために，教育研究に取り組んでいます。

本学は，建学以来基盤としてきたフロンティア精神のもとに，

- 先端的な学術研究を推し進める創造性と知性を持つ人材
 - 高度な専門的知識を備えた職業人として社会に貢献する人材
 - グローバルな視野と国際社会に発信できる力を備えた人材
- を着実に育てることを決意しています。

1 募集人員

教育学部	2名
経済学部	10名
理学部数学科	2名
理学部物理学科	5名
理学部化学科	10名
理学部生物科学科（生物学分野）	5名
理学部地球科学科	8名

歯学部	10名
薬学部	10名
工学部応用理工系（応用化学コース・ 応用マテリアル工学コース）	11名
農学部農業工学科	6名
農学部農業経済学科	5名
水産学部	16名

2 出願資格及び要件

(1) 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- ① 高等学校又は中等教育学校を平成22年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき，平成21年4月から平成22年3月までに卒業又は卒業見込みの者

（教育学部を除く学部）

- ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成21年4月から平成22年3月までに修了又は修了見込みの者

（教育学部を除く学部）

- ③ 高等学校又は中等教育学校で職業教育を主とする学科（農業，水産，工業，商業，家庭，看護，情報及び福祉に関する学科）を卒業した者及び平成22年3月卒業見込みの者

（教育学部）

- ④ 高等学校又は中等教育学校の総合学科を卒業した者及び平成22年3月卒業見込みの者で，職業教育に関する教科・科目を20単位以上修得したものと及び修得見込みのもの

（教育学部）

(2) 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- ① 合格した場合，入学を確約できる者
- ② 高等学校等で数学「I・II・III・A・B・C」を履修し，かつ，物理「I・II」，化学「I・II」，生物「I・II」，地学「I・II」のうちいずれか1つを履修している者

なお、数学Bの履修範囲は「数列」、
「ベクトル」とし、数学Cの履修範囲は
「行列とその応用」、「式と曲線」とす
る。(理学部数学科)

③ 高等学校等で物理「I・II」を履修している者

ただし、物理「I・II」の履修が不可能な者については、物理「I」及び「II」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。(理学部物理学科)

④ 高等学校等で化学「I・II」及び物理「I・II」を履修している者

ただし、物理「I・II」の履修が不可能な者については、物理「I」及び「II」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。(理学部化学科)

⑤ 高等学校等で生物「I・II」を履修し、かつ、物理「I・II」及び化学「I・II」から1つを履修している者

ただし、物理「I・II」又は化学「I・II」の履修が不可能な者については、物理「I」及び「II」を履修した者あるいは化学「I」及び「II」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。(理学部生物科学科(生物学分野))

⑥ 高等学校等で物理「I・II」又は化学「I・II」を履修している者

(理学部地球科学科)

⑦ 高等学校等で物理「I・II」、化学「I・II」、生物「I・II」のうち2つを履修している者

(歯学部、薬学部、工学部応用理工系、水産学部)

ただし、当該科目の履修が不可能な者については、物理・化学・生物とも「I」及び「II」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、学力を有するかどうかについては、選考時に審査する。

(工学部応用理工系)

⑧ 高等学校等で物理「I」を履修している者

ただし、物理「I」を履修せず、物理

「I」と同等の内容の科目を履修している場合は、物理「I」を履修した者と同程度の学力を有することについて、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載し、それを証明する資料を添付すること。

(農学部農業工学科)

⑨ 学習成績概評がA以上の者

(教育学部、歯学部、薬学部)

⑩ 十分な基礎学力がある者

(工学部応用理工系)

・ 実用英語技能検定試験(英検)の準2級(商業英語検定試験、TOEFLなどにおいては相当するレベル)以上に合格していることが望ましい。(教育学部)

3 入学者選抜方法

調査書、個人評価書、自己推薦書、課題論文及び面接等の結果を総合して合格者を決定する。

なお、工学部応用理工系及び農学部農業経済学科では、平成22年度大学入試センター試験の結果も併せて総合評価する。

4 出願書類の受理期間

平成21年10月13日(火)から

平成21年10月20日(火)(午後5時必着)

5 第1次選考結果の発表

平成21年11月10日(火)

6 第2次選考の期日

平成21年11月22日(日)

7 大学入試センター試験

(工学部応用理工系、農学部農業経済学科)

平成22年1月16日(土)から

平成22年1月17日(日)

8 合格者の発表

平成21年12月8日(火)午前9時

(工学部応用理工系、農学部農業経済学科を除く。)

平成22年2月10日(水)午前9時

(工学部応用理工系、農学部農業経済学科のみ。)

(学務部入試課)

平成22年度帰国子女入試学生募集要項の発表

平成22年度帰国子女入試学生募集要項を6月19日(金)に発表しました。
概要は次のとおりです。

1 募集人員

各学部・系・学科・専攻とも一般入試前期日程試験の募集人員の枠内とし、若干名

2 出願資格

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、海外に在住し外国の学校教育を受け、かつ、次に掲げる基礎資格及び要件に該当するもの

(1) 基礎資格

次のいずれかに該当すること。

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成22年(2010年)3月31日までに修了見込みの者

イ 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、18歳に達したもの及び平成22年(2010年)3月31日までに18歳に達するもの

ウ 外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、18歳に達したもの及び平成22年(2010年)3月31日までに18歳に達するもの

エ 外国において、フランス共和国の大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、18歳に達したもの及び平成22年(2010年)3月31日までに18歳に達するもの

※ 上記「(1) - ア」で出願する場合は、日本と当該国における教育制度を考慮する必要があり、事前に学校教育歴及び修了又は修了見込みである高等学校(相当する学校)のカリキュラム等を確認しているため、あらかじめ学務部入試課に照会すること。

(2) 要件

次に掲げるすべての要件に該当すること。

ア 外国の学校に最終学年を含む2年以上

継続して在学したこと。ただし、この年限には我が国の学校教育法に基づく課程によるものは含まない。

イ 基礎資格取得後2年以内であること。

[平成20年(2008年)4月1日から平成22年(2010年)3月31日までの間に取得又は取得見込みであること。]

(3) その他

国家試験等の統一試験がある国では、その統一試験を受験していることが望ましい。

3 入学者選抜方法

大学入試センター試験を免除し、次の方法により選考する。

(1) 第1次選考

出願書類により選考を行う。

(2) 第2次選考

第1次選考に合格した者に対し、課題論文及び面接により選考を行う。

課題論文において与えられる文章には、高等学校(相当する学校)等で学習した内容(例えば、英文、数式、理科の公式など)を含むことがある。

面接では、口頭試問等を含む基礎学力の判定も行う。

4 出願書類の受理期間

平成21年(2009年)10月13日(火)から
平成21年(2009年)10月20日(火)
(午後5時必着)

5 第1次選考結果の発表

平成21年(2009年)11月10日(火)

6 第2次選考の期日

平成21年(2009年)11月22日(日)

7 合格者の発表

平成21年(2009年)12月8日(火)
午前9時

(学務部入試課)

名誉教授称号授与式の挙行

先に本学名誉教授に決定された方々（35名）に対する称号授与式が、6月2日（火）午前11時から事務局大会議室において執り行われました。

当日出席された16名の名誉教授一人ひとりに、佐伯総長が称号を授与した後、長年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウスエンレイソウ「レストランエルム」において、道内在住の名誉教授と部局長・役員との懇談の場として

企画された名誉教授懇談会が文学研究科を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、部局長、役員合わせて72名が出席され、文学研究科望月研究科長の開会の辞に始まり、総長の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあった後、逸見理事の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、文学研究科長の閉会の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。



名誉教授称号授与式

(総務部人事課・文学研究科)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、法人化後の厳しい財政状況の下、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自律性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしています。平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

【北大フロンティア基金情報】

基金累計額 (5月31日現在)

8,229 件 1,299,523,939 円

教職員の寄附率 21.6% (842件 / 3,894人)

〈5月のご寄附状況〉

法人等4社、個人98名の方々から6,467,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名

(法人等)

宮崎大宮高等学校12回生一同、 有限会社札幌庭園工業

(個人)

石本 征一, 伊藤 勇, 上野 宏治, 江頭 又助, 海老田憲人, 大鋸 友紀, 大畑 昇,
 岡田 尚武, 奥山 克史, 小内 透, 加我 順一, 角 幸博, 加藤 正久, 川淵 則明,
 菊池 久和, 木村亜希子, 柴田 栄子, 清水 隆, 杉浦 秀一, 関 俊章, 瀬名波栄潤,
 高井 潔司, 高橋 伸夫, 高橋 光彦, 竹内昭士郎, 武川利代己, 竹田洋一郎, 館野 正之,
 土家 琢磨, 寺澤 睦, 所 伸一, 豊田 威信, 長田 泰則, 野坂 政司, 早坂 孝一,
 平尾 裕之, 藤崎 雅士, 本多 雄二, 前原 太, 三浦 敏明, 安井 弘子, 山崎 賢司,
 山本 克之, 吉田 広志

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(法人等)

有限会社札幌庭園工業

(個人)

江頭 又助, 山本 克之

感謝状の贈呈



山本潤子様 (6月10日)



株式会社神戸製鋼所様(6月16日)

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ

教職員向け

学内限定情報・システム

北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入していただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ ———— 基金事務室(事務局1階・学内電話2012 / 2017)

(基金事務室)

平成20年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、6年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたことを本紙面をお借りしてお礼申し上げますとともに、平成20年度決算をご報告いたします。

なお、昨年の本紙面（平成20年7月号No.652）でご報告いたしました、本後援会の会費を北大フロンティア基金の寄附金として取り扱うことにつきましては、平成20年12月22日（月）開催の役員会で審議した結果、同基金の寄附金として取り扱うこととなりました。これに伴い、皆様の会費は寄附金扱いとなり、5千円を超える場合は税法上の優遇措置を受けることができるようになりました。

さて、本後援会の事業は、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証、留学生の入院に伴う連帯

保証、留学生の疾病及び不測の事故等に対する経済的支援ならびに留学生支援団体に対する経済的支援等を行うものであり、特に留学生の賃貸住宅入居・入院に伴う連帯保証事業は、指導教員及び留学生の精神的・労力的負担の軽減に役立っているところであります。これに加えて、昨年は一時金貸付制度を創設し、私費外国人留学生を対象に円高による仕送り額の減少などの一時的な理由により臨時に資金が必要になったときに5万円を限度として貸付を行い、当面の生活の安定に寄与しました。これもひとえに皆様のご協力とご支援の賜と感謝しております。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成20年度北海道大学外国人留学生後援会決算書

自) H.20.4.1

至) H.21.3.31

単位 円

1. 収入の部（平成21年3月31日現在）

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度からの繰越	20,934,468	20,934,468	
会費	4,692,000	4,601,865	6 月期徴収額 2,346,465 12 月期徴収額 2,255,400
立替払い（漏水事故）の返済	300,000	300,000	2 回分
寄付金		107,622	1 件
預金利息	15,000	29,978	
収入合計	25,941,468	25,973,933	

2. 支出の部（平成21年3月31日現在）

単位 円

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	2,500,000	108,046	家賃等の立替払い 1 件
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	550,000	一時金貸付 11 件
留学生を支援する団体に対する経済的支援	439,425	439,425	
事務経費	525	0	
予備費	14,501,518	0	
支出合計	25,941,468	1,097,471	

3. 差引額

単位 円

翌年度に繰越	24,876,462
--------	------------

(学術国際部留学交流課)

スポーツトレーニングセンターで全天候走路を改修

スポーツトレーニングセンターの体育館内に敷設されている全天候走路（周回距離81.5m）の改修工事が完成し、去る4月6日（月）に使用可能となりました。

全天候走路は1968（昭和43）年のメキシコシティ・オリンピックで「タータン」の名称で初めて使われ、以来、多くの競技の記録が向上しました。当センターは1972（昭和47）年の札幌冬季オリンピックに備えて1970（昭和45）年に設立され、我が国で最初のタータントラックが館内に敷設されていました。その後、当セン

ターは「体育指導センター」として正課教育・体育系サークルのトレーニング、学生・教職員の体力健康づくりの個人利用に供され、現在はスポーツトレーニングセンターの旧名に戻ってこれらの役目を引き続き担っています。

札幌冬季オリンピックでの「ジャンプ、日の丸飛行隊」を初めとする各選手、そして1991（平成3）年から続いたスキー・ノルディック複合黄金期の我が国チーム選手も使い続けた「タータントラック」が改修され、赤茶の色調の新しい様相がお目見えしました。



新しくなった全天候走路（タータントラック）

（高等教育機能開発総合センター）

国際シンポジウム「HOKKAIDO UNIVERSITY－ MAHIDOL UNIVERSITY JOINT SYMPOSIUM」開催

創成研究機構、先端生命科学研究院では、「日本学術振興会 若手研究者交流支援事業 一東アジア首脳会議参加国からの招へい」のサポートにより、平成21年3月から5月にかけてMahidol大学（タイ）の10人の若手研究者（講師1人、大学院学生9人）の短期留学を受け入れました。このプログラムの一環として、5月12日（火）から13日（水）の日程で、「HOKKAIDO UNIVERSITY－MAHIDOL UNIVERSITY JOINT SYMPOSIUM」が創成科学研究棟において開催されました。（代表者：基礎融合科学領域リーダー育成システム特任助教 田中良和）

本シンポジウムでは、大学院生や若手研究者の研究成果の発表に主眼を置き、国内外の若手研究者を招へいし、最新の生命科学研究の動向について議論することができました。

12日の午前の部「Plenary Lecture」では、Marc-Michael Blum博士（Blum-Scientific所属；ドイツ）、真壁幸樹博士（自然科学研究機構 岡崎共通研究施設 岡崎統合バイオサイエンスセンター；日本）、Sarin Chimnaronk博士に、中性子線とX線による結晶構造解析から、酵素反応のメカニズムを原子レベルで解明した研究（Blum博士）、蛋白質中の β -シートの形成機構を蛋白質工学的手法により解明した研究（真壁博士）、種々のRNA修飾酵素の反応機構を解明した研究（Chimnaronk博士）についてご講演いただきました。

午後の「Students' Presentation」では、Mahidol大学と北海道大学の8名の大学院学生が口頭発表を行い、蛋白質科学、計算科学、生体材料化学などの幅広い生物科学研究についての活発な議論が展開されました。また、両大学の43名の若手研究者がポスター発表を行い、現在進行形の研究について積極的な意見交換がなされました。

13日の「Young Researchers' Presentation」

では、国内の7人の若手研究者による最近の研究成果が報告され、松尾光一博士（広島大学）による放射光円偏光二色性の利用や展望、浅野竜太郎博士（東北大学）による抗体分子の医学的応用に向けた研究の動向をはじめ、技術開発から分子解析・医学的応用に至る幅広い分野について知見を深めることができました。

また、学会終了後には、北海道大学茶道研究会の協力のもと、外国人研究者の異文化体験として、「Japanese Tea Ceremony」が行われました。出席した外国人研究者の多くは、はじめての経験に興味津々の様子でした。茶道研究会代表の門脇由香利さん（経済学部4年生）も、貴重な機会を提供できて良かったと語っていました。

本シンポジウムは、北大基礎融合科学領域リーダー育成システムと、融合生命科学プロフェッショナルの育成FB-Stationの学生により運営されました。運営委員にとっては、研究についての知見を深められただけでなく、国際学会の企画・運営を学ぶ非常に良い機会にもなりました。



会場での集合写真



ポスター発表の様子

Japanese Tea Ceremony にて
茶道について学ぶ留学生たち

(創成研究機構, 先端生命科学研究院)

「海外留学説明会」を開催

国際交流室及び留学交流課は、5月20日(水)に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において海外留学説明会を開催しました。

海外留学説明会は、海外留学を希望する日本人学生等を対象に、広範な留学情報の提供を行い、留学を促進する目的で年5回程度開催しており、今回は第1回目の開催となりました。

説明会では、冒頭に蟹江国際交流室役員補佐から、留学の計画を早期に立てること、今から語学の準備をすることが非常に重要であること、また全体説明会終了後の留学体験者との個別相談などを有効に活用し、今回の説明会を留学を考えるきっかけにしてほしい旨のメッセージがありました。次いで、留学交流課より、北大の留学制度の概要について説明があった後、交換留学生としてアメリカ・ポートランド州立大学及びカナダ・アルバータ大学へ留学した2

名の学生より、留学体験談が披露されました。

国際交流室及び留学交流課は、海外留学説明会を定期的に開催する他、地域別・プログラム別説明会を充実させるなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。留学交流課では、留学相談も受け付けていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。



留学交流課スタッフからの説明

(学術国際部留学交流課)

「短期語学研修プログラム説明会」を開催

国際交流室及び留学交流課は、5月20日（水）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、短期語学研修プログラム説明会を開催しました。今回の説明会は、冒頭に蟹江国際交流室役員補佐から留学の計画を早期に立てること、今から語学の準備をすることが非常に重要であること、また短期留学を長期留学への足掛かりとしてほしい旨のメッセージがありました。次いで、今年の夏に開催されるアメリカのポートランド州立大学、ハワイ大学、ニュージーランドのオークランド大学、韓国の全北大学校の短期語学研修プログラムについて留学交流課から説明がありました。引き続き、過去にポートランド州立大学及び韓国の嶺南大学校、釜慶大学校のプログラムに参加した学生から、語学研修やホームステイについての具体的な内容を含んだ留学体験談が披露されまし

た。その後、北大生協から、生協が提供している「短期語学留学プログラム」についての説明がありました。説明会に参加した約40名の学生は、同世代の学生の発表に熱心に耳を傾け、説明会終了後も残って個別に質問していました。これらの体験談が、留学経験のない学生たちにとって、留学をより身近なものに感じられる貴重な機会となってくれるよう願っています。

国際交流室及び留学交流課は、海外留学説明会を定期的を開催する外、今回のようなプログラム別説明会を開催するなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。留学交流課では、留学相談も受け付けていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。



参加者にアンケートを行う
蟹江国際交流室役員補佐



短期語学研修体験談（アメリカ）

（学術国際部留学交流課）

函館キャンパスにて「短期語学研修プログラム説明会」を開催

国際交流室及び留学交流課は、5月27日(水)に水産学部(函館キャンパス)において「短期語学研修プログラム説明会」を開催しました。

当日は、札幌キャンパスの説明会に参加できない学生達が出席しました。清水講師の司会のもと、留学交流課職員より現在参加者を募集している「北大サマープログラム」について説明があった後、同プログラムで、ニュージーランドに4週間短期留学した学生が、自身の体験談を臨場感あふれる写真と共に熱く語り、留学を希望する学生が熱心に耳を傾けていました。

国際交流室及び留学交流課は、水産学部の皆さんに留学をより身近なものと感じてもらうため、今後も札幌キャンパス同様、函館キャンパスでも海外留学に関する諸行事を実施していく予定です。

メール(ryugaku@academic.hokudai.ac.jp)での留学相談も受けつけておりますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。



ニュージーランド留学体験を説明する留学体験者



熱心に耳を傾ける参加者たち

(学術国際部留学交流課)

「出入国管理制度説明会」開催

5月29日（金）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、「出入国管理制度説明会」を開催しました。

この「出入国管理制度説明会」は、昨年までは、「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として同協議会における「研修会」として企画・実施されてきました。

同協議会では、昨年総会において「総会」を年1回開催することになり、同協議会主催の研修会に代わるものとして、本年度より本学において「出入国管理制度説明会」を企画、実施することになりました。

今回の説明会開催にあたり、法務省札幌入国管理局に「出入国管理制度について」のご講義をお願いしたところ、快くお引き受けいただいた

ところでした。

当日は、本学関係職員を始めとして29機関・団体から79名の参加があり、法務省札幌入国管理局統括審査官 尾埜善久氏より、「出入国管理制度について」の講義があり、参加者一同熱心に受講していました。



講演風景

（学術国際部留学交流課）

遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を実施

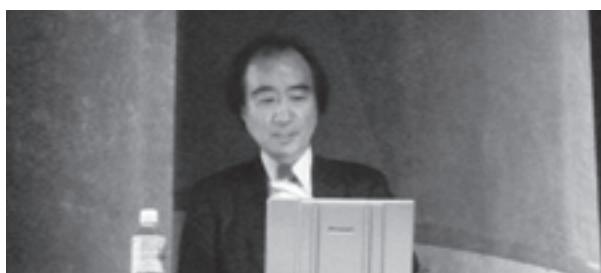
去る5月19日（火）に遺伝子組換え実験等の従事者を対象にした、遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会をクラーク会館講堂にて開催しました。

この講習会は、遺伝子組換え実験等の従事者に、関係法令、本学規程等の基礎的な知識及び実験を申請するにあたっての注意事項等について理解してもらうことを目的としたもので、本

学規程で受講が義務付けられているものです。

今回の講習会には、職員・学生等合わせて約900名が出席し、遺伝子組換え実験等安全委員会委員長である、薬学研究院・有賀寛芳教授に講義いただきました。

今回受講出来なかった従事者の方は、秋に第2回講習会を予定していますので、是非受講してください。



講義を行う有賀教授



会場の様子

（学術国際部研究協力課）

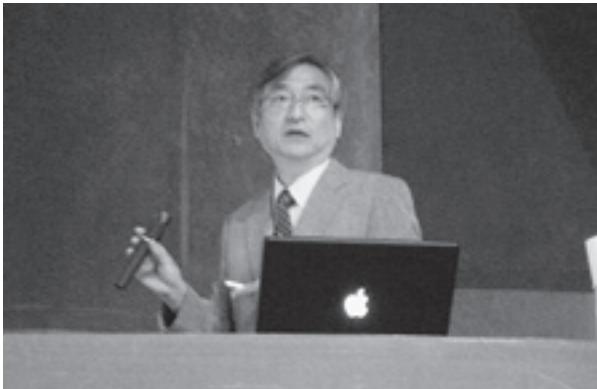
動物実験実施者等教育訓練を実施

去る5月11日(月), 5月28日(木)に動物実験の従事者を対象にした教育訓練を, クラーク会館講堂において開催しました。

この教育訓練は, 動物実験の従事者に, 関係法令, 本学規程等の基礎的な知識, 実験申請にあたっての留意点及び実験を実施する上での注意事項等について理解してもらうことを目的としたもので, 本学規程で受講が義務付けられているものです。

今回の教育訓練には, 職員・学生等合わせて約380名が出席し, 動物実験委員会委員長である医学研究科・有川二郎教授, 同委員会委員の獣医学研究科・安居院高志教授, 理学研究院・北田一博准教授, 医学研究科・小山内努助教が講義を行いました。

今回受講できなかった従事者の方は, 秋に第2回教育訓練を予定していますので, 是非受講してください。



講義を行う有川教授



講義を行う安居院教授



講義を行う北田准教授



講義を行う小山内助教

(学術国際部研究協力課)

平成20年度北海道大学レーン記念賞授与式の 挙行

去る6月3日(水)、高等教育機能開発総合センター中会議室において、平成20年度北海道大学レーン記念賞授与式が行われました。

今回の受賞者は、平成19年度に入学した6名です。

授与式では脇田副学長、高久名誉教授、渡邊名誉教授、外国語教育センターより奥准教授、土田准教授、そして長澤学務部長の出席のもと、奥准教授から、「レーン記念賞は、戦前から戦後にかけて本学の英語教育にご尽力されたハロルド・M・レーン (Harold M. Lane) 先生のご功績を記念して、昭和40 (1965) 年に設けられたもので、1～2年次の英語成績が優秀で、レーン夫妻の残した国際親善の精神にふさわしい学生に授与される賞である」との紹介がありました。

次いで脇田副学長から受賞者へ賞状、記念メダル及び図書券が授与されました。

脇田副学長の祝辞を受け、受賞者を代表して文学部の藤井翔太さんから、歴史ある賞への謝辞と、「今までの努力が認められて良かった、これからも努力していきたい」との言葉が述べられました。

当初は「レーン記念奨学金」として、平成9年からは「レーン記念賞」として、今回を含め328名の学生に授与されています。

受賞者

文学部	シムノヴィチ	ドラ
文学部	藤井	翔太
法学部	中村	逸美
経済学部	阿野	有紗
農学部	若槻	由加
農学部	中山	結佳

(学務部学生支援課)



お礼の言葉を述べる受賞者



受賞者記念撮影

部局ニュース

公共政策大学院が喜茂別町との連携協定を締結

公共政策大学院（公共政策学連携研究部・公共政策学教育部）と喜茂別町は、相互の発展のため、学術・地域振興・文化・教育等の分野において協力するため、6月3日（水）にファカルティハウス・エンレイソウにおいて連携協定を締結しました。

喜茂別町と本大学院とは、従前より本大学院・山崎幹根教授が喜茂別町で講演を行い、菅原章嗣町長を本大学院のゲストスピーカーとして招聘するなどの交流を重ねてきた実績があります。

協定締結後は、①喜茂別町が策定する「まちづくり自律プラン」の策定への協力、②地域の持続的発展及び地域資源の活用に関する支援、③喜茂別町と札幌市南区との広域連携のサポート、④本大学院の教員、学生らによるフィールドワークを通じた研究等が行われる予定で、積極的な交流連携が期待されます。



協定書調印後、握手する菅原喜茂別町長（中央）、中村公共政策大学院長（右側）及び山崎教授（左側）

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）

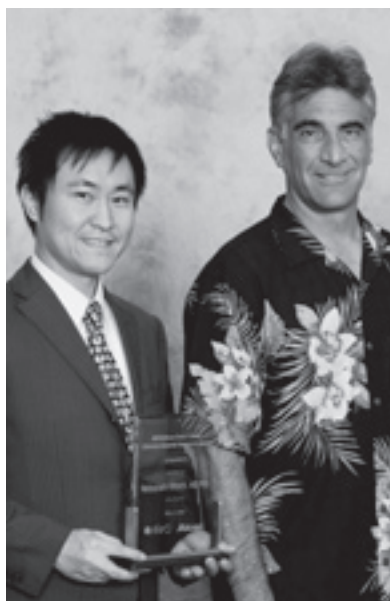
北海道大学病院 北市伸義助教がアルコン研究賞 (ARVO/Alcon Research Award) を受賞

去る5月3日(日)、北海道大学病院の北市伸義助教(眼科)がアメリカ視覚眼科学研究協会(ARVO)アルコン研究賞(ARVO/Alcon Research Award)を受賞され、米国フロリダ州フォートローダーデイルにおいて受賞式が挙行されました。

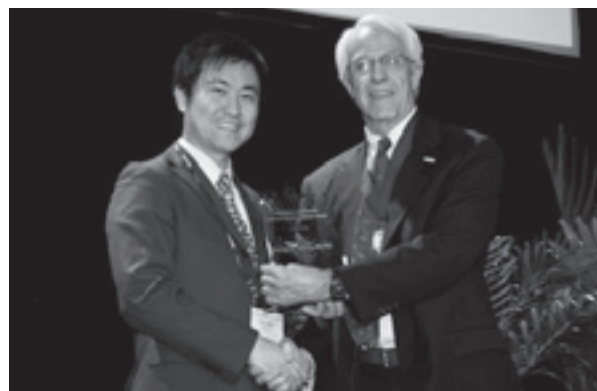
アメリカ視覚眼科学研究協会会議(ARVO)は世界最大・最高峰の眼科学/視覚研究学会であり、本年度も世界中から15,000名以上の参加者を迎えて開催されました。その中で最も優れた研究を行った5人の医師研究者(clinician-scientist)に本賞が授与され、北市

助教は本学からは初の受賞者(日本人では3人目)となりました。

研究内容の概略は、失明につながる重篤な眼疾患であるぶどう膜炎の動物モデルを用いて、抗TNF- α 抗体を眼内に直接投与することにより劇的に炎症を軽減できる、というものです。本剤は既に全身投与で関節リウマチやクローン病、ベーチェット病などに用いられておりますが、これまで眼内に直接投与するという発想はなく、その劇的な効果と全身副作用をほぼ完全に回避できる点が高く評価され、本賞を授与されることとなりました。



マルゴリス ARVO 理事長(右)と
受賞記念の撮影



授賞式の様子
(右 エイブラムス ARVO 議長, 左 北市助教)

(北海道大学病院)

第13回全国共同利用情報基盤センター長会議 を開催

去る5月29日(金)、本学情報基盤センターを当番校として、札幌市内のホテルにおいて「第13回全国共同利用情報基盤センター長会議」が開催されました。

本会議は、全国共同利用の情報基盤センター等が相互に緊密な連携と協力を図ることにより、その振興に寄与することを目的として北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の情報基盤センター及び国立情報学研究所を構成機関として、年2回開催されています。

「第13回全国共同利用情報基盤センター長会議」では、文部科学省研究振興局舟橋情報課長、

情報課飯澤学術基盤整備室長、同室高橋学術情報第一係長を迎え、学術情報基盤等に関する最近の動向等について説明が行われ、説明の中で我が国の最先端の学術研究を推進し、教育研究活動の効率的な展開を図っていくためには、学術情報基盤の整備・充実が重要であり、情報基盤センターと国立情報学研究所がさらに密接な連携を図り、学術情報基盤の中核的機関として先導的な役割を果たす必要があることが強調されました。

また、各機関からの提案に基づく諸議題等についての協議等が行われ、活発な議論が交わされ、所期の目的を十分に達成し終了しました。



説明を行う文部科学省 舟橋情報課長 (写真中央)



活発な議論を交わす参加者

(情報基盤センター)

第33回「国立大学アイソトープ総合センター長会議」の開催

第33回国立大学アイソトープ総合センター長会議が、去る6月3日（水）、4日（木）の2日間にわたり、アイソトープ総合センターにおいて本学が当番校となり開催されました。

会議には、国立大学法人21大学のアイソトープ総合センター等の長が出席し、当番大学である本学岡田理事・副学長による開会の挨拶に引き続き会議が進められました。

会議は、本学玉木長良アイソトープ総合センター長の議事進行により、文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室 石井忠放射線物質セキュリティ専門官による「放射線規制の動向」と題する講演に始まり、各アイソトープ総合センター等の現状と課題、これからの展望等について活発な討議が行われ、「国立大学における放射線教育の充実」に関する提言を作成し、関係機関等に発信していくこ

とが採択されました。また、本学大学院工学研究科 鬼柳善明教授、千葉大学アイソトープ実験施設荒野泰教授による最先端の研究成果の発表も行われ、会議終了後には、本学アイソトープ総合センター及び大学院工学研究科瞬間強力パルス状放射線発生装置室の施設見学も行われました。施設見学は自由参加でしたが、多数の方々がアイソトープ総合センター 久下裕司教授、関興一特任教授及び大学院工学研究科鬼柳善明教授の誘導により、小動物用PETや半導体PETや加速器本体、パルス磁場中性子集束装置、中性子共鳴吸収イメージング装置等最先端機器等の見学に参加されました。

また、1日目の会議終了後にファカルティハウスエンレイソウで開かれた懇親会では、当番校を代表して佐伯総長による挨拶が行われた後、和やかな雰囲気の中にも熱心な意見交換及び情報交換が行われました。



岡田理事・副学長の開会挨拶



文部科学省 石井専門官の講演



佐伯総長の懇親会挨拶



会議の様子

(アイソトープ総合センター)

環境科学院で北大祭・研究施設公開 「もっと身近に環境科学」を開催

環境科学院では、6月6日(土)、7日(日)の2日間、北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催しました。

今回は、昨年、一昨年に引き続き3回目の開催となりましたが、企画の内容は、7名の教員・学生が研究内容をわかりやすく紹介する「環境サイエンストーク」、実験の一部を体験する14のテーマによる「環境サイエンスパフォーマンス」、環境科学院全24コースの研究内容を紹介する「パネル展示」などが行われました。

開催期間中、親子連れの小学生や中・高・大学生、札幌市内・近郊・道外からの大人の皆様など300名の方々が訪れ、体験型の研究施設公

開を楽しまれました。

アンケートに対する回答は、78名からいただきましたが、「専門的な内容をわかりやすく説明する工夫がされていて楽しかった」「環境改善の可能性がたくさんあると知ってうれしかった」「自身の研究分野とは違う研究分野の紹介を大変分かりやすく、また環境修復の方法が幅広いフィールドワークで広がっていることに感心させられた」などの評価をいただきました。

今後とも、企画の内容に改善を加え、市民の方々に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。



環境サイエンストーク



環境サイエンスパフォーマンス

(環境科学院・地球環境科学研究院)

看護週間―「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施

毎年5月12日（ナイチンゲール生誕日）は「看護の日」、また、この日を含む1週間は「看護週間」として制定されています。本院では今年も、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しが行われました。

1階アメニティホールでは毎年恒例になっている看護相談や栄養相談、歯磨き指導、AEDの紹介が行われ、連日多数の方が訪れました。また、病棟の様子を紹介した写真パネルのコーナーや、患者さんからスタッフへ寄せられたメッセージのコーナーでも、大勢の方が足を止め、ひとつひとつに見入っていました。

また、5月12日（火）には「第19回看護の日の夕べ」が浅香正博病院長の挨拶で開催され、

札幌聖心女子学院のオーケストラ部・コーラス部による音楽コンサートが開かれました。

音楽コンサートは、クラシックの定番曲から人気アニメの主題歌まで幅広いジャンルの演目があり、会場は大変盛り上がりました。

この講演の様子は、本院アメニティホールに設置されたライブカメラを通じて、入院患者さんのベッドサイドで流れる無料放送でも放映されました。

「第19回看護の日の夕べ」は、盛況の中、川畑いづみ看護部長の挨拶で幕を閉じました。

看護週間にちなんだ催しは、今年で19回を数えますが、「看護」という言葉のもつ重さを再認識する貴重な機会として定着しています。



挨拶する浅香病院長



挨拶する川畑看護部長



札幌聖心女子学院
オーケストラ部・コーラス部による演奏

（北海道大学病院）

日本ハムファイターズ、北海道大学病院院内学級を訪問!!

6月1日(月)に、北海道日本ハムファイターズの監督と選手達が北海道大学病院を訪問し、院内学級に通級する子供達と小児科に入院する子供達を激励しました。

院内学級は、入院中の子供達が通級するために、札幌市立幌北小学校と北辰中学校の病虚弱学級として北大病院内に設置されているものです。

この訪問は、北海道大学病院スポーツ医学診療科が北海道日本ハムファイターズのチームドクターであるという縁から、日本ハムファイターズからのご提案により実現しました。

訪れたのは梨田昌孝監督、ダルビッシュ有選手、ブライアンスウィーニー選手、藤井秀悟選手、糸井嘉男選手の5名です。監督と選手は浅香正博病院長への挨拶の後、激励の会場である病院内のスポーツ運動療法施設へと向かいました。

会場では、監督と選手の自己紹介・子供達の質問タイムの後、選手とのキャッチボール・ファイターズグッズのプレゼント・記念撮影・サイン会等のふれあいの時間となりました。監

督と選手の皆さんは子供達に大変やさしく接してくれるとともに、暖かい励ましの言葉をかけてくれました。

子供達からは「選手と一緒に写真がとれてうれしかった。(小1男子)」「選手とキャッチボールができてうれしかった。(小2女子)」「体ががっちりしていてカッコ良かったです。(小5男子)」等々の喜びの声があがりました。

院内学級の子供達から監督と選手達にプレゼントが手渡され、最後に梨田監督からの挨拶で激励会は幕を閉じました。

その後、監督と選手達は小児科病棟を訪れ、会場に来ることができなかった子供達の病室をひとつひとつ訪れ、入院中の子ども達を激励してくれました。

生徒達にとってはこれから病気と闘っていく上での大きな励みになるとともに、かけがえない思い出となったと思います。

北海道大学病院は北海道日本ハムファイターズをこれからもサポートしていきます!



梨田監督と記念撮影



選手達とのサイン会

(北海道大学病院)

経済学部で「経済成長とベンチャーキャピタルの役割」をテーマに講演会を開催

経済学部では、5月12日（火）午後1時から、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、経済学部1年生を対象に株式会社ジャフコの毛塚富雄副社長（昭和47年本学部卒）による講演会を開催しました。

毛塚氏は本学部卒業後、野村証券株式会社に就職、29年間のうちに人事部長、常務取締役を経てベンチャーキャピタル最大手のジャフコ（当時の日本合同ファイナンス）に移籍され、現職に就かれました。毛塚氏は本学部東京同窓会の会長も務められ、今回は後輩への熱い思いを持って来札されました。

毛塚氏は「経済成長とベンチャーキャピタル

の役割」と題して約1時間にわたって講演されました。内容は、ベンチャーキャピタルとは何かの序論に始まり、日本の金融界の現況、その中でのベンチャーキャピタルの位置、株式公開と成長企業、北海道経済の現状と多岐にわたりましたが、200人近くの1年生は瞳を輝かせ熱心に聞き入っていました。

講義後の感想文には、社会人になることの意味が少しわかったとか、働くことの生き甲斐、投資というビジネスに興味を持った等々様々な印象が書かれており、有意義な催しであったことが示されました。



講演する（株）ジャフコ毛塚富雄副社長



熱心に聞き入る学生

（経済学研究科・経済学部）

会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催

経済学研究科会計情報専攻（会計専門職大学院）では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、5月18日（月）、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会は、公認会計士の業務の実際および最新の資格試験ならびに監査法人への就職状況についての情報を学部生と大学院生に提供することで、広く本学の学生に公認会計士についての正しい認識をもってもらい、その資格取得を目指す学生には具体的な指針を提供することを目指しています。今年は38名の学部生と大学院生の参加を得ました。

説明会では、まず柴口幹男日本公認会計士協

会北海道会広報委員長による説明会の趣旨説明と吉見宏会計専門職大学院長による挨拶の後、石井久英日本公認会計士協会北海道会広報委員が公認会計士業務と平成20年度試験合格者の状況と採用状況について説明しました。さらに、昨年公認会計士試験に合格して今年度から会計士業務に携わっている西村志織日本公認会計士協会北海道会準会員と安岡悟志日本公認会計士協会北海道会準会員から、ご本人の公認会計士試験の受験体験と現在の実務体験についてのお話がありました。このお二人は、それぞれ本学の文学部と経済学部の卒業生です。その後、質疑応答を行い、参加学生から熱心な質問を受けました。



公認会計士業務等の説明をする
日本公認会計士協会北海道会広報委員
石井久英氏



経済学部卒業生の
日本公認会計士協会北海道会準会員
安岡悟志氏

（経済学研究科・経済学部）

薬学部第12回生涯教育特別講座を開催

薬学部生涯教育特別講座は、同窓生を含む医療関係者および一般市民を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的としており、本年度より、春秋年2回開催することといたしました。

今回、第12回目春季講演会を5月8日（金）に、本学薬学部臨床薬学講義室において開催しました。当日は、同窓生に加えて、薬学部のホームページより本講座の開催を知った市内外の薬剤師、さらには本学内外の薬学部学生など、主催者の予想を大きく上回る170名もの参加者がありました。会場の臨床薬学講義室は、薬学部の6年制学科設置に伴い、教育環境を整備・充実させるため建築された新棟の講義室ですが、会場は満員となり、立ち見が出るほどの盛況でした。

講演会では、まず「ドーピングとスポーツファーマシスト」と題して、北海道大学病院薬

剤部の笠師久美子副薬剤部長の講演がありました。本講演では、薬剤師という職業が有する多くの可能性、そして、それを実現するための自己研鑽の重要性についてのお話を頂きました。つづいて、日本薬剤師会の岩月進常務理事より「今・薬剤師が取り組まなければならないこと」という題で、医療において薬剤師の価値をどのように高めてゆくべきかについて、ブランド品や諸外国における取り組みの話をお話を頂きました。会場からは数多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。

次回は、10月17日（土）15時30分から秋季公開シンポジウム・教育講演が開催されます。道内3施設に薬剤師として勤務する本学卒業生が最新の薬剤業務を紹介いたします。さらに、熊本大学薬学部 平田純生先生に「慢性腎臓病における薬物療法・薬剤師としてなすべきこと」のタイトルで講演頂く予定です。



講演風景



講演を行う講師の先生

（薬学研究院・薬学部）

薬学部でメンタルケア講習会を実施

薬学部では、6月1日(月)14時45分から、高等教育機能開発総合センターN1教室において、学部1年次生を対象としたメンタルケア講習会を開催しました。

この講習会は、メンタルケアについての理解・関心を深め、学生が快適なキャンパスライフを送れるよう実施したものです。当日は、北海道大学保健管理センター講師で臨床心理士である、武田弘子氏を講師に迎え、「大学生のメンタルヘルス」という演題で講習会が行われました。

講習会では、「心の健康とは」、「アルコー

ルと自殺」などについて説明があり、講義中に「心理疲労度チェック」、「うつ病自己評価尺度検査」を学生に実施し自己採点をして現状を把握してもらいました。当日は、83名の参加者があり、武田氏の説明を熱心に聴き入っていました。

参加者からは、「自分の精神状態を客観的尺度から分析できて良かった」「良い睡眠をとる方法がよくわかった」「自分のことを見直すきっかけになった」「2つの検査がよかった」などの感想が多く寄せられました。



保健管理センター・武田講師による講習会



熱心に聴き入る学部1年次生

(薬学研究院・薬学部)

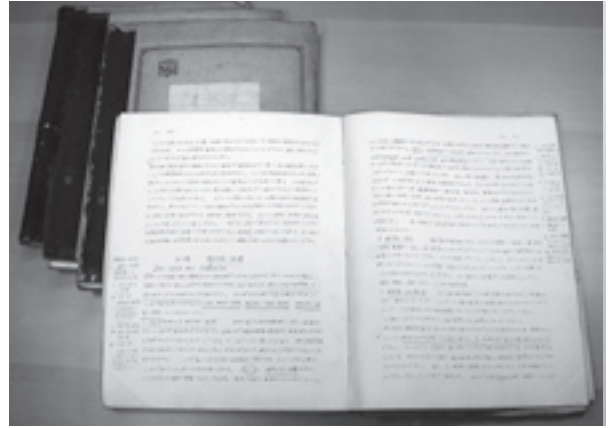
佐々木隆介関係資料を大学文書館で受贈

5月14日（木）、大学文書館では、佐々木隆介関係資料を、夫人の佐々木扶美子氏からご寄贈いただきました。

佐々木隆介氏は、1938（昭和13）年北海道帝国大学予科（農類）に入学し、1941（昭和16）年4月農学部農業経済学科に進学、1943（昭和18）年10月大学院特別研究生として植民学（植民政策）を研究しました。1946（昭和21）年からは北海道庁職員として農地政策に従事し、1952（昭和27）年4月には、設立間もない北海道大学教育学部に講師として着任しました。助教授（1954年）・教授（1966年）に昇任し、1970（昭和45）年転出されるまで、社会教育学講座において後進の指導・育成に尽力されました。転出後は藤女子大学・北星学園大学等で教鞭をとるとともに、北海道における生涯教育施策や施設整備等に係わる各種委員会で重職を務められました。

この度、受贈した資料は、受講ノート・テキスト・参考書、講義ノート・配布資料、論文手稿、辞令など4箱です。

受講ノートは、予科時代では、物理学・動物学・ドイツ語等があり、外国人教師クレンプ（Willy Kremp）講義のドイツ語ノートも含まれています。農学部時代では、「植民学」（上原徹三郎教授）、「農政学」（中島九郎教授）、「農業経営学」（渡邊侃助教授）等の主要科目のノートが揃っており、1940年代の農業経済学教室の研究動向を知り得る貴重な学術資料です。



農業経済学関係の受講ノート

また、講義ノート・原稿は、社会教育放送・生涯教育をテーマに執筆されたものがある一方、1968～77年にかけて佐々木隆介教授の特別講演を受講した北海道大学医学部附属助産婦学校生徒の感想文も5期分揃っています。



講義ノートと受講生の感想文

今後、受贈資料については、大学文書館において整理して大切に保管し、沿革資料として活用いたします。

（大学文書館）

定山溪中学校修学旅行事前学習を大学文書館で実施

5月22日(金)、札幌市立定山溪中学校3年生5人が、担任の黒川佳子先生、安孫子和典先生、西村日登志校長の引率のもと、岩手県への修学旅行に向け、事前学習のため来学しました。

当日は、大学文書館において、「佐藤昌介(1856～1939)は英語が上手かった」と題し、岩手県花巻市出身で札幌農学校第1期生である佐藤昌介について、逸見勝亮大学文書館長が特別授業を行ないました。



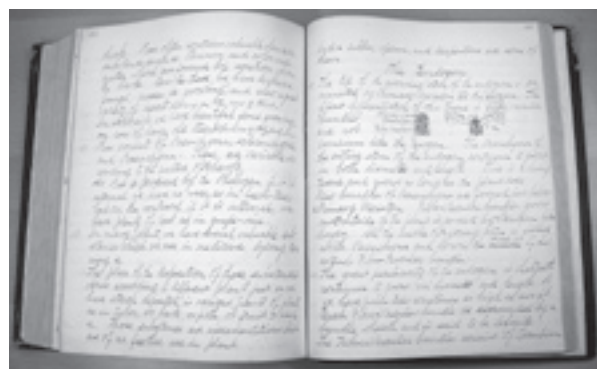
佐藤昌介クイズの最中

特別授業は、まず、下記のクイズ(四択問題)から始まりました。

- (1) 昌介は14歳の頃には何をしていたか？
- (2) 昌介は15歳で上京。交通手段は？
- (3) 15歳から英語の勉強を始めた目的は？
- (4) 昌介が札幌農学校へ入学したのはどうしてか？

クイズの答え合わせでは、岡田奈里砂さん、塚田紗希さん、長谷川雅恵さん、三野莉奈さん、眞壁涼君が選択理由を真剣に考えて、論理的に答えてくれました。クイズ終了後は、佐藤昌介が英学を志した理由・道程に沿いながら、19世紀後半における日本の社会状況・教育問題などを掘り下げる授業となりました。また、授業中には、佐藤昌介がW.S.クラークから添削を

受けた受講ノート(英文)や当時の写真など、沿革資料を特別巡覧しました。



佐藤昌介の受講ノート

後日届いた5人の感想文には、外国人教師の英語による講義を聞き取り、理解し、筆記することができた当時の札幌農学校生の英語力に対する驚きが寄せられました。



定山溪中学校の皆さんと

今後も、大学文書館では、修学旅行事前学習等で北海道大学の歴史を学びたい皆さんに、特別授業・資料提供等で支援していきます。

(大学文書館)

「地質の日」記念展示「支笏火山と私たちの暮らし」を開催

去る4月28日（火）から5月31日（日）に北海道大学総合博物館1階「知の統合」コーナーにおいて、本総合博物館企画展示「支笏火山と私たちの暮らし」が開催されました。

本展は昨年開かれた企画展示「ライマンと北海道の地質—北からの日本地質学の夜明け—」展に引き続き、5月10日の「地質の日」を記念するもので、今年には日本地質学会北海道支部・日本応用地質学会北海道支部・北海道地質調査業協会・札幌建築鑑賞会・札幌軟石文化を語る会・北海道大学総合博物館の共催で行われました。

約4万年前の支笏火山噴火は我が国でも最大級の巨大火山爆発であり、その火砕降下物は遠く知床半島まで到達しています。また、厚い火砕流堆積物は支笏カルデラ周辺から札幌市・恵庭市・千歳市・苫小牧市を含む低地を埋め立てて、その広大な火砕流台地は後カルデラ火山活動である恵庭岳や樽前山の軽石や火山灰とともに優れた自然景観を作っており、また市民生活とも密接に関わっています。さらに、支笏火山およびその後の火山活動は温泉や金属鉱床などの恵みももたらしています。

展示では、火山活動の災害と恵みの両面を市民の皆さんに知っていただくことを意図に、支笏カルデラ噴火と後カルデラ火山活動の様子や火砕流堆積物の特徴と分布、支笏湖周辺の温泉や金鉱床などの地質学に関わる事柄とともに、札幌市の建築遺産といえる札幌軟石のかつての採掘の様子などをパネルや実物展示、DVD映像により紹介しました。また、火山災害の防災・減災への意識や備えの重要性も市民にアピールしました。NPO法人環境防災総合政策研究機構と（財）自然公園財団支笏湖支部に提供していただいた有珠火山や支笏湖のDVD映像、および（財）資源・環境観測解析センターに提供していただいた衛星画像による支笏湖周辺の立体写真はたいへん好評を博しました。

今回の目玉の一つは、明治期以降において札幌の重要な建築材料であった「札幌軟石」（溶結凝灰岩）でした。札幌軟石は、開拓使の御雇い外国人技師であった米人アンチセルにより発見されたともいわれていますが、粗末な住居のため火事が多かった明治初期に開拓使により耐火建築資材として使用を奨励され、そのため、明治から大正初期の札幌には日本では珍しい石造建物の建築文化が見られました。それらの一部は、現在でも使用され、また保存されています。札幌軟石建築物の調査を市民グループが行っており、来年の展示はそれが中心になる予定です。

関連の土曜市民セミナーとして、5月16日（土）に若松幹男氏（北海道地質調査業協会）と瀬戸静恵氏（財団法人自然公園財団支笏湖支部）による講演会「支笏火山と支笏湖よもやまばなし」が行われ、多くの市民に参加していただきました。



講演会の様子



会場の様子



ポスター

(総合博物館)

総合博物館土曜市民セミナー 「モンゴルの現状－伝統的な暮らしvs近代的な暮らし」が開催される

総合博物館では、5月9日(土)土曜市民セミナー「モンゴルの現状－伝統的な暮らしvs近代的な暮らし」を開催しました。講師は、北大総合博物館ボランティアHUISAのスフバートル レンチンスレンさんです。

どこまでも続く大草原、のんびりと草を食べる羊や馬たち、点在するゲル(移動式テント)……。モンゴルといえば、そんなイメージを思い浮かべる日本人が多いのではないのでしょうか?そう、モンゴルの草原を訪れば、自然と共存した素晴らしい生活を目にすることはできます。がその一方で、首都ウランバートルの中心地に一歩足を踏み入ると、ビルが立ち並び、片手で携帯電話を持ち歩く若者、夜ともなれば煌びやかなネオンが目に飛びこんで

ます。大自然の中の伝統的な暮らしと、都会の近代的な暮らしが、共存するモンゴルの現状について、さまざまな面から紹介されました。

セミナーに参加した約90名の市民は熱心に受講し、また質問していました。



講演するスフバートル レンチンスレン講師

(総合博物館)

総合博物館で土器パラタクソノミスト養成講座 (初級)を開催

総合博物館では、5月30日(土)に、当館の天野哲也教授と小野裕子氏を講師に迎え、土器パラタクソノミスト養成講座(初級)を開催しました。

パラタクソノミスト養成講座とは、学術標本やサンプルを正しく同定し、整理する能力を有し、環境調査・教育において必要とされる人材である「準分類学者(パラタクソノミスト)」を養成するための講座です。パラタクソノミストは、生物分類学や生物多様性研究、環境調査、環境教育などの分野で、自然史系分類学(タクソノミー)、生物多様性研究、環境アセスメント、環境教育の専門家をサポートし、社会で幅広く活躍することが想定されています。

今回の講座は、初めての開催でありながら、数多くの応募があり、その中から、考古学や土器などの考古学資料に関心のある初心者・初級者の方を中心に、10名の受講生を迎えて行われました。午前の部では、自然史系の学術標本・サンプルの分類と比較しながら、考古学分野における分類とは何か、分類することの意義とは何か、について詳しい講義を受けました。受講生は、遺跡や遺物、遺構などの慣れない考古学の用語や、様式、形式、型式などの違いに戸惑いながらも、熱心に耳を傾けていました。午前の部の後半には、2人1組になって、エジプト

の前王朝期の7種の土器グループを古い順にならべるといいう課題に取り組みました。

午後の部では、土器の観察、分析、記録に取り組みました。礼文島から発掘されたオホーツク土器の一部が1人1つずつ配られ、表面と断面の情報の記録と表面の拓本作りの実習を行いました。情報の記録では、土器から得られる模様や形状、色調、整形痕、混和剤(種類、粒径)、付着物(炭化物など)などの情報を三角定規やディバイダーを用いて詳細に記載しました。また、拓本作りでは、土器に水で湿らせた画仙紙を土器の表面に隙間のないように張り、墨を付けたタンポで丁寧に叩いて、陰影を写し取りました。受講者は、初めてみる道具や慣れない作業に戸惑いながらも、講師の指導を受けて真剣に取り組んでいました。最後には、「土器パラタクソノミスト(初級)」の修了証が授与され、受講生は、自分が作った記録用紙と拓本とともに持ち帰りました。

パラタクソノミスト養成講座は、昨年の12月より、総合博物館と、北海道大学教育G P「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」との共催で開催されており、今年度の上半期には、合計で13講座が開催される予定です。



会場の様子



(総合博物館)

園児たちが毎年恒例の田植え体験

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、5月27日(水)に札幌第一幼稚園、29日(金)に本学教育学研究院附属乳幼児発達臨床センター(北大幼稚園)の園児合わせて約130名による田植えが行われました。

昨年も田植え体験を行った年長組園児たちは余裕の表情で、今回が初めてとなる年中組園児たちはこれからどんなことをするんだろうと不安げな様子で圃場にやってきました。

最初に作物グループの技術職員から説明がありました。27日に用意された水稻苗は「ななつぼし」、29日に用意された水稻苗は「おぼろづき89」で、園児の中には名称を耳にしたことがある子もちらほらいた様子でした。ひと株から子ども茶碗1杯分のお米が獲れることや、本農場で獲れるお米の量などの説明を聞いた後、園児から「どうして泥の中で育つの?」「お米はどうやって育つの?」といった質問があり、その答えに園児たちは驚いたり感心したりしていました。

27日はあいにくの空模様で寒さに震えながらの体験となってしまいましたが、はだしで膝まで冷たい泥に埋まっても、園児たちは元気に田植えをしていました。29日は、例年天気恵まれない北大幼稚園でしたが今年は天気恵まれ、暖かな日差しの中で気持ちの良い田植え体験となり、園児たちはゆっくりと泥の感触を楽しみ、たくさんのお米を植えました。

秋には金色に実った稲穂刈りを楽しみに、苗がすくすくと成長することを願い、園や自宅に水稻苗おみやげをもらって今年の田植えを終りました。

ところで食味の良い米として最近では「ふっくりんこ」が出回っていますが、これは主に道南で生産される品種で、今年、本農場では「コシヒカリ」にも優る食味だといわれる「ゆめぴりか」を作付けしています。育苗中は肥料の効果や生産性など様々な観点から研究がなされ、道産米のエースとしての実力が試されます。市

場でも今年の秋には「ゆめぴりか」が出回るかもしれませんが、機会があったら是非召し上がってみてはいかがでしょうか。



熱心に聞き入る園児たち
説明にも力が入ります



「せっかく植えた苗踏むんじやないぞ」



「足をきれいに洗おうね」
「先生もね」

(北方生物圏フィールド科学センター)

お知らせ

カルチャーナイト2009 「星空とチェンバロの夕べ」

普段、見ることができない文化施設や公共・民間施設などを夜間開放して、家族そろって地域の文化に触れる催し、カルチャーナイトが開催されます（主催：カルチャーナイト実行委員会）。平成15年に開始され7年目を迎えるこの催しに、今年も総合博物館は参加します。期日は7月17日（金）の夕方16時30分から21時まで。

常設展示・企画展示の時間延長、北大ポプラ・チェンバロの紹介と演奏、4Dシアター鑑賞会、富良野の夜空のLIVE中継、夏の星座の鑑望会を実施する予定です。ご協力をいただくのは、札幌星仲間、上富良野町「一番星天文台」中西靖男氏、CoSTEP（北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット）、北大天文同好会の皆様です。詳しいプログラムなどは当館ホームページでご確認下さい。

多くの方々のご来場をお待ちしています。

総合博物館ホームページ <http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/>

（総合博物館）

レクリエーション

「大人のためのサッカー教室」がスタート

6月3日（水）から教職員サッカークラブ「大人のためのサッカー教室」が今年度もスタートしました。

この教室は、サッカー未経験者や初心者を対象に、「ボールを蹴って、ボールを運んで、ゴールを決める楽しさを体験し、サッカーの基礎技術を習得すること」を目標として、昨年度より開催しているものです。

今年度初となった第1回の教室では、昨年からの継続者2名を含め参加者9名が教職員サッカークラブ員のマンツーマン指導のもとサッカーの基本となる「ボールタッチとボールコントロール」の練習を行いました。いずれの参加者も、一生懸命体を動かし練習に励んでいました。

今年度も「大人のためのサッカー教室」は、毎月1回開催する予定です。途中からの参加者も大歓迎ですので興味のある方は下記までご連絡下さい。

問い合わせ先：husoccer@academic.hokudai.ac.jp（事務担当：法学部庶務担当 稲垣）

（教職員サッカークラブ）

表敬訪問

〈国内〉

月 日	来 訪 者
21. 6. 1	株式会社日立製作所 代表執行役 執行役会長兼執行役社長 川村 隆氏, 代表執行役 執行役副社長 森 和廣氏ほか



株式会社日立製作所

(総務部広報課)

〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
21. 5. 14	中央民族大学 (中国) 陳 理 学長	学術交流に関する意見交換
21. 5. 28	河北理工大学 (中国) 張 玉柱 学長	工学研究科訪問
21. 5. 29	ダッカ大学歯学部 (バングラデシュ) Mohiuddin Ahmed 教授	学術交流に関する意見交換



中央民族大学 陳 理 学長 (中央)



河北理工大学 張 玉柱 学長 (右から 6 人目)



ダッカ大学歯学部 Mohiuddin Ahmed 教授
(左から 3 人目)

(学術国際部国際企画課)

同窓会との交流

—北水同窓会定期総会—

5月23日（土），水産学部の同窓会である北水同窓会定期総会が「札幌サンプラザ」で開催されました。

当日は約160名の同窓生が全国から集い，本学からは佐伯総長が参加しました。

総会では横山会長（株式会社アークス代表取

締役社長）の挨拶に引き続き，佐伯総長が大学の近況などとあわせて挨拶をしました。総会後の懇親会では，同窓生から近況報告のスピーチなどが行われ，フィナーレは「北農寮逍遙歌」，「水産放浪歌」，「都ぞ弥生」を全員で合唱し，万歳三唱でお開きとなりました。



挨拶する佐伯総長



全員で「都ぞ弥生」を合唱

—工学部同窓会総会—

5月29日（金），平成21年度工学部同窓会総会が工学部において開催されました。

当日は，総会に先立ち，日野自動車株式会社相談役 蛇川忠暉氏による「“技術者と技術開発への思い”そして“ものづくり”への原点回帰」と題する講演があり，資源のない国日本におけるものづくりの大切さについて熱く語られ，会場に集まった学生，教職員約100名が聞

き入りました。

懇親会では，木谷勝 新理事長の挨拶に続き，佐伯総長から大学の近況及び北大フロンティア基金への協力依頼がありました。乾杯の発声は昭和10年卒業の繁富一雄氏により行われ，世代を超えた和やかな交流となりました。

懇親会のフィナーレは，恒例の寮歌「都ぞ弥生」を肩を組んで参加者全員で歌いました。



講演を行う蛇川氏



挨拶する木谷理事長



挨拶する佐伯総長

（総務部広報課）

諸会議の開催状況

役員会 (平成21年 5月13日)

議 案・平成21年度国際化拠点整備事業(グローバル30)の申請について

協議事項・第二期(平成22年度～平成27年度)中期目標・中期計画(案)について

- ・保健科学院保健科学専攻博士後期課程の設置構想について
- ・総合化学院の設置構想について
- ・(財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)との包括連携協定について
- ・北海道大学学位規程の一部を改正する規程(案)について
- ・「単位互換の指針」と「ダブル・ディグリー・プログラム」の導入について
- ・平成21年6月期の期末手当・勤勉手当について
- ・契約職員に係る期末手当・勤勉手当の期間率の見直しについて
- ・「教員免許状更新講習」の実施に伴う給与上の措置について
- ・就業規則等の一部改正について

報告事項・新型インフルエンザ対策の現状及び今後について

- ・北海道大学緑のピアガーデン2009の開催について
- ・北海道大学プロフェッサー・ビジット2009の実施について
- ・大学技術移転促進法に基づく実施計画の承認について
- ・平成20年度資金の運用状況について
- ・平成21年度会計監査人候補者の選定について
- ・平成20年度決算速報について
- ・平成21年度補正予算について
- ・障害者の雇用状況等について

教育研究評議会 (平成21年 5月25日)

議 題・保健科学院保健科学専攻博士後期課程の設置構想について

- ・総合化学院の設置構想について
- ・(財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)との包括連携協定について
- ・厳正な学位審査体制等の確立について
- ・大学間交流協定の新規締結について
- ・「単位互換の指針」と「ダブル・ディグリー・プログラム」の導入について
- ・教員の懲戒について

報告事項・新型インフルエンザ対策の現状及び今後について

- ・北海道大学緑のピアガーデン2009の開催について
- ・北海道大学プロフェッサー・ビジット2009の実施について
- ・学生の懲戒について
- ・大学技術移転促進法に基づく実施計画の承認について
- ・寄附研究部門の設置について

役員会 (平成21年 5月26日)

議 案・保健科学院保健科学専攻博士後期課程の設置構想について

- ・総合化学院の設置構想について
- ・(財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)との包括連携協定について
- ・北海道大学学位規程の一部を改正する規程(案)について
- ・「単位互換の指針」と「ダブル・ディグリー・プログラム」の導入について
- ・北海道大学における受動喫煙防止に関する当面の方針(案)について
- ・就業規則等の一部改正について
- ・平成22年度特別経費(新規プロジェクト)事前説明事業(案)について
- ・平成21年度補正予算事業「教育研究高度化のための支援体制の整備」について

報告事項・授業料の納付期限の特別措置について

- ・平成22年度特別経費事前説明事業について
- ・会計検査院会計実地検査の実施について

※規程の制定, 改廃については, 「学内規程」欄に掲載しております。

学 内 規 程

国立大学法人北海道大学産学連携本部規程の一部を改正する規程

(平成21年 5 月14日海大達第133号)

平成21年 4 月 1 日付けで、知財・産学連携本部から改組された産学連携本部に置かれた「広域TLO事務室」について、平成21年 5 月 1 日付けで、特定大学技術移転事業の実施に関する計画の中で「広域連携室」として承認されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。(平成21年 5 月 1 日適用)

北海道大学学位規程の一部を改正する規程

(平成21年 5 月28日海大達第134号)

学位審査の公正性及び信頼性を確保するため、学位論文の審査等を行う審査委員が審査等の対象となる者から供応接待又は金銭、物品その他の財産上の利益の供与を受けてはならないことを明確にすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年 6 月 1 日海大達第135号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年 6 月 1 日海大達第136号)

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年 6 月 1 日海大達第137号)

国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程

(平成21年 6 月 1 日海大達第138号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(平成21年 6 月 1 日海大達第139号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程

(平成21年 6 月 1 日海大達第140号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法第63条第 3 項の規定及び国家公務員の給与改定に関する取扱い並びに内閣官房長官談話における各法人への要請を踏まえ、職員の給与について、社会一般の情勢に適合したものとし、かつ、国家公務員の給与水準を十分考慮して国民の理解が得られる適正な給与水準とするため、平成21年 6 月に支給する期末手当及び勤勉手当に関する特例措置として、それぞれの支給月数の一部を暫定的に凍結すること、期末特別手当を廃止し、指定職基本給表及び特定職基本給表の適用を受ける職員に期末手当及び勤勉手当を支給すること、並びに契約職員等の 6 月期に係る期末手当及び勤勉手当の基準日以前 6 箇月以内の在職期間に応じて乗じる割合を改めることに伴い、所要の改正を行ったとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

人 事

平成 21 年 5 月 14 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【課長】 (転出) 弘前大学施設環境部長	澤 口 哲 也	施設部施設企画課長

平成 21 年 5 月 15 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【課長】 施設部施設企画課長	長 井 一 夫	東北大学施設部施設管理課長
【准教授】 (転出) 神戸大学大学院医学研究科教授	山 田 秀 人	大学院医学研究科准教授

平成 21 年 5 月 16 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	李 揚 加 藤 雅 俊 HAZUCHA BRANISLAV	採 用 採 用 採 用

平成 21 年 5 月 18 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 函館キャンパス事務部カウンセラー	大 貫 真樹子	採 用

平成 21 年 5 月 31 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	湯 浅 資 之 藤 井 健 吉 畔 原 宏 明	大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センター助教
【技術職員】 (辞職)	工 藤 篤 志	北海道大学病院診療支援部理学療法士

平成 21 年 6 月 1 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院情報科学研究科教授	今 井 英 幸	大学院情報科学研究科准教授
【准教授】 大学院獣医学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院教育学研究院准教授 総合博物館准教授	乙 黒 兼 一 工 藤 信 樹 北 村 嘉 恵 小 林 快 次	大学院獣医学研究科助教 大学院情報科学研究科助教 大学院教育学研究院助教 総合博物館助教
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院工学研究科助教 大学院理学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院薬学研究院助教	佐々木 成 子 LEE ROMEO 猿 渡 亜由未 西 田 義 憲 仁 木 加寿子 佐 藤 夕 紀 片 山 貴 博	採 用 採 用 採 用 大学院理学研究院教務職員 採 用 採 用 大学院薬学研究院助手
【助手】 大学院理学研究院助手	出 口 善 行	大学院理学研究院教務職員
【技術職員】 水産学部附属練習船おしよる丸二等航海士 水産学部附属練習船おしよる丸三等航海士 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部主任診療放射線技師	星 直 樹 阿 部 拓 三 苦米地 淳 子 鹿 又 真 弓 上 田 俊 一	水産学部附属練習船おしよる丸三等航海士 採 用 採 用 採 用 北海道大学病院診療支援部診療放射線技師

新任教授紹介

平成21年 6 月 1 日付

情報科学研究科教授に いまい ひでゆき 今井 英幸 氏

(コンピュータサイエンス専攻数理計算科学講座)



生年月日

昭和37年 9 月13日

最終学歴

北海道大学大学院工学

研究科修士課程修了

(昭和62年 3 月)

博士 (工学)(北海道大学)

専門分野

多変量解析学, 情報解析学

新任部課長等紹介

平成21年 5 月15日付

施設部施設企画課長に ながい かずお 長井 一夫 氏



昭和28年 9 月18日生

昭和47年 3 月

北海道立旭川工業高等学校卒

昭和49年 2 月

旭川医科大学

昭和59年 4 月

文部省管理局教育施設部札幌

工事事務所

平成 2 年 4 月 文部省大臣官房文教施設部札幌工事事務所施設係長

平成13年 4 月 群馬大学施設部設備課長

平成15年 9 月 東京医科歯科大学施設部設備課長

平成18年11月 東北大学施設部施設管理課長

計 報

名誉教授 いちはら あきたみ 市原 耿民 氏 (享年 74 歳)



名誉教授 市原耿民氏は、平成21年4月19日午前9時30分、膵臓癌のため74歳をもって逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和9年6月2日札幌市に生まれ、同32年3月北海道大学理学部を卒業後、同大学院に進学されました。昭和37年3月理学研究科化学専攻博士課程を修了し、理学博士の学位を授与されました。昭和37年4月同大学理学部助手に採用され、同45年4月同大学農学部助教授、平成元年同教授に昇任され、農芸化学科農産物利用学講座を担当しました。その後、学部改組により、平成4年4月からは生物機能化学科生物有機化学講座を担当し、同10年3月停年により退職され、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

この間、同氏は北海道大学理学部での毒キノコの毒成分の構造、合成研究を経て、昭和45年より、農学部において、まず、農産物由来特異成分の化学的研究を行いました。ソバやフキに含まれる特異成分の構造解析、合成の他、漢方で用いられているゴボウ種子より新規リグナン、ラッパオール類を単離しました。ラッパオール類には、セスキリグナン、ジリグナンの一般名称を与え、本分野の発展に寄与しました。さらに、環形成反応として有名なディールス・アルダー反応を用いた生理活性物質の合成研究を行い、またトウトマイシン、フレノノリシ、オッシラトキシンDなどの複雑な化合物を含む多数の抗菌、抗生物質、マイコトキシン、植物毒性物質等を合成しました。さらに、単離構造決定された植物毒素の生合成に関し、生体内ディールス・アルダー反応に参与する酵素(ディールス・アルダラーゼ)の分離に成功しました。また、植物病原菌産生生理活性物質の生物有機化学的研究により、牧草イタリアンライグラスかさ枯病菌の産生毒素コロナチンの全構造を決定後、植物ホルモン、エチレンの生成機構の解明による切花延命剤の開発やジャスモン酸プロ-

ブとしての高い活性を明らかにしました。その他アスパラガス茎枯病菌の生産するセスキテルペン、アルチロキシン類、バレイショ夏疫病菌の植物毒素ソラナピロン類およびアルタナル酸類、テンサイ蛇眼病菌のベータノン類、ヒノキ漏脂病菌よりアプシステロール類、抗菌物質セパシアミドAの他、数種の牧草病原菌からマイコトキシンを含む生理活性物質を単離・構造決定・化学合成し、天然物化学の発展に貢献されました。

同氏の生物有機化学領域における研究業績は高く評価され、昭和50年4月には「エポキシドンならびに関連化合物の合成、生合成研究」で日本農芸化学会農芸化学奨励賞、平成2年2月には「先導的バイオサイエンスのための有機合成化学的展開」で有機合成化学協会賞、平成8年3月には「合成化学を機軸とした生理活性天然物研究と新展開」で日本農芸化学会賞、平成10年11月にはこれらの業績に対して紫綬褒章を受章されております。

学内においては、平成3年4月から同10年3月まで北海道大学農学部GC-MS及びNMR委員会委員長として、大型分析機器の共同管理、利用の促進、機器の更新に尽力し、また、平成元年4月から同10年3月まで同大学触媒化学研究センター協議会委員を務め、同センターの発展および大学行政にも貢献されました。

一方、学外においては、文部省学術審議会専門委員(科学研究費分科会)(平成2年2月~同4年1月、同6年1月~同9年1月)、文部省科学研究費特別推進研究代表者(平成7年4月~同9年3月)、農林水産省生態秩序検討委員会委員(平成元年4月~平成11年3月)、財団法人農芸化学研究奨励会選考委員(平成5年6月~平成9年3月)、日本学術会議発酵学・農産物利用学研究連絡委員会委員(平成3年10月~平成9年10月)等数多くの委員等を歴任され、また、学会活動として、日本農芸化学会評議員(平成3年4月~同5年3月、同6年4月~同8年4月)、同学会理事(平成元年4月~同2年3月)、同学会北海道支部長(平成3年4月~同5年3月)、同学会授賞選考委員

(平成5年4月～同7年3月), 同学会役員選考委員(平成7年9月～同8年4月), 同学会編集委員(平成4年4月～同6年3月), 同学会「化学と生物」企画委員(昭和54年4月～同58年3月), 日本化学会速報誌編集委員(平成2年4月～同5年3月), 有機合成化学協会幹事(平成3年3月～同5年2月)等を歴任され, 我国の農芸化学・有機化学分野の先駆的存在として同分野の発展に尽力されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)

名誉教授 ^{ふじもと ゆたか} 藤本 胖 氏 (享年 86 歳)



名誉教授 藤本 胖氏は, 平成21年5月13日午前6時30分, 前立腺がんのため86歳で逝去されました。ここに生前のご功績を偲び, 謹んで哀悼の意を表します。

同氏は大正11年9月11日, 北海道室蘭市に生まれ, 昭和21年9月北海道帝国大学農学部畜産学科を卒業, 北海道農業会に技手として勤務した後, 昭和23年8月北海道大学農学部雇, 同年12月副手, 昭和25年12月助手となり, 昭和27年4月獣医学部の発足に伴って同学部に配置換えとなり, 同年10月講師, 昭和28年12月助教授を経て, 昭和37年2月教授に昇任されました。以来24年2ヶ月間にわたり, 獣医学科比較病理学講座を担当され, 昭和61年3月31日をもって定年によって退官され, 同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。退職後は国際協力事業団のザンビア大学獣医学部技術協力プロジェクトチームリーダー並びにザンビア大学教授として, 同大学の管理運営並びに教育研究に3年7ヶ月間にわたって没頭され, 今日と同大学の発展の基盤を築かれました。

同氏の研究活動は獣医病理学の全般にわたっていますが, なかでも感染症(馬の伝染性貧血, 牛の悪性カタル熱, 山羊のヨーネ病, 犬のウイルス性肝炎), 中毒症(牛のデューレン病, 乳牛の産褥性血色素尿症, 牛の水銀中毒, 家畜のフラトール中毒, 山羊の尿素中毒)およびウイルス性腫瘍(牛の乳頭腫症, 牛と馬のリンパ性白血病, 鶏のマレック病)に関する研究業績が著明です。鶏のマレック病に関する研究では, 原因ウイルスが羽包上皮細胞で増殖し, 成熟ウイルス粒子がふけに移行し, ウイルス侵入後約1週間でリンパ性器官に初期病変が形成され, ウイルス侵入約4週間後に腫瘍が形成されることを明らかにされ, 本病の治療対策確立に大きな貢献をされました。また, マレック病ウイルス粒子の三次元構造を追及され, 細胞内でのウイルス粒子形成過程を明らかにされました。

名誉教授 ^{やまなか さとし} 山中 智之 氏 (享年 70 歳)

これらのマレック病に関する一連の研究により、平成3年度日本獣医学会越智賞を受賞されました。

学内においては、北海道大学評議員、獣医学部長、家畜病院長、大学改革検討委員会委員などを歴任され、本学および獣医学部の管理運営に大きく貢献されました。学外では、学術審議会専門委員(文部省)、獣医学視学委員(文部省)、獣医師免許審議会委員(農林水産省)、日本獣医学会理事・評議員、病理分科会会長などの職責を果たされました。昭和59年には、獣医学教育6年制実施への功績に対し、産業教育百年記念功労者として文部大臣表彰を受けられました。

以上のように同氏は、獣医病理学、超微形態学、ウイルス学等の幅広い学術研究分野と多数の有為な人材の養成等の教育分野で優れた業績を挙げるとともに、斯界における学会および社会の発展のため多大な貢献をされ、ご定年後は国際貢献に尽力されました。これらの功績により、平成9年11月に勲二等瑞宝章を受けられました。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(獣医学研究科・獣医学部)



名誉教授 山中智之氏は平成21年5月14日午後8時40分、特発性血小板減少性紫斑病のため70歳で逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和14年1月25日福島県に生まれ、昭和36年3月東北大学文学部文学科(独語独文学専攻)を卒業後、同年4月同大学大学院文学研究科修士課程に進学し、昭和38年3月文学修士号を取得されました。同年4月から東北大学教養部において非常勤講師としてドイツ語を担当されました。昭和39年3月東北大学文学部助手に就任し、昭和41年9月まで勤務されました。昭和42年4月山形大学文理学部講師に就任し、昭和44年10月同教養部助教授に昇任されました。昭和49年10月北海道大学文学部助教授に転任し、昭和56年4月同言語文化部助教授に配置換となり、平成2年3月同教授に昇任し、平成14年3月31日限り定年により退職、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、山形大学時代を含め35年の永きにわたって、ドイツ語教育を中心とする教養教育に献身されました。その一方で先生は早くからドイツにおける勉学にも意欲を燃やし、東北大学助手時代の2年有余にわたる(当時西)ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生としてのゲッティンゲン大学・ミュンヘン大学留学を嚆矢として、比較的長期のものに限っても都合五度にわたる公的・私的滞独によって、広くドイツ文化研究者として研鑽を積まれました。

先生の研究領域は、ごく初期の主に古典主義・ロマン主義時代のドイツ文学研究を別にすれば、ドイツ語教授法との関連におけるランデスクンデ(ドイツ事情)研究と異文化コミュニケーション研究の二つに大別されます。その中でも先生は、特にランデスクンデの研究に情熱を傾け、一般教育演習のテーマに取り上げて学生に当研究への手ほどきを行いました。先生のような研究と教育との生産的な連動は、ラ

ンデスクンデに関する3冊の著作へと結実しました。

先生の呈示する新しいランデスクンデは手堅い実証性に裏付けられつつ、個性的な視点から一国家としてのドイツと一言語としてのドイツ語を検証するものとして、真に独創的なコンセプトを提起する優れた業績であります。

当然のことながら、ランデスクンデ研究は異文化コミュニケーション研究と不可分離の関係にあります。先生は若い日々からの弛みない研鑽によって、ドイツ語の読解のみならず口頭表現の分野においても、ほとんど達人とも呼ぶべき境地に達しました。このような卓越した総合的ドイツ語運用能力を武器として、先生は異文化圏域としてのドイツ研究を足掛かりとして、原理的な異文化コミュニケーション論構築へと研究を進めました。この関連において特筆すべきは、先生の芥川龍之介の作品を中心とする日本語テキストのドイツ語への訳業であります。翻訳大国たる日本において外国語への翻訳作業は従来ほとんど当該外国の日本研究者の手に委ねられてきたのが実状です。このような状況下において、先生の試みは、先生の異文化研究の複眼的重層性と海外に向けての日本文化発信に対する果敢な使命感を証明するものであります。

また先生の研究活動の社会的意義を証示するものとして、北海道国際文化交流協会における献身的な貢献を挙げなければなりません。先生は同協会において創立時から中心的な役割を担い、ドイツ人芸術家を招聘して、日独文化交流を推進してきました。この活動から先生の業績の一端をなすいくつかの論稿が生まれました。

さらに教育の面においても、先生は初等ドイツ語文法書の執筆、ドイツ語テキストの編注等によって精力的に教材開発を行い、ドイツ語の指導・普及に尽力されました。

学内において先生は、全学関係の委員として入試関係委員の他、在外研究員候補者選考委員会委員、高等教育機能開発総合センター予算・施設委員会委員を歴任し大学運営に多大に寄与されました。言語文化部内では、経理委員会委員長、人事委員会委員、教育計画委員会委員、研究計画委員会委員を歴任し、その几帳面な性格とも相俟って、終始一貫誠実に職務を遂行さ

れました。

以上のように、先生は35年余りに亘り教育研究に携わり、本学の発展と向上に寄与した功績は、誠に顕著であります。

ここに謹んで先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(国際広報メディア・観光学院、
メディア・コミュニケーション研究院)

資 料

在籍学生数(平成21年5月1日現在)

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数(工学部は高専卒業者の受入れ)。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人] [10人]	196人	196人	215人	257人	一人	一人	864人 (422<48.8%>)	10人	10人	17人	16人	917人 (458<49.9%>)
教育学部	50 [10]	58	55	70	79	—	—	262 (147<56.1 %>)	3	19	7		291 (159<54.6 %>)
法学部	200 [10] [10]	203	223	236	307	—	—	969 (290<29.9 %>)		3		6	978 (294<30.1 %>)
経済学部	190	210	216	206	225	—	—	857 (234<27.3 %>)			17	11	885 (251<28.4 %>)
理学部	300	312	360	307	347	—	—	1,326 (283<21.3 %>)		3	6	4	1,339 (286<21.4 %>)
医学部	280 [5] [20]	295	299	341	311	98	100	1,444 (622<43.1 %>)			2		1,446 (623<43.1 %>)
歯学部	60	61	59	59	58	61	59	357 (142<39.8 %>)			5		362 (143<39.5 %>)
薬学部	80	91	86	86	72	—	—	335 (112<33.4 %>)			2		337 (113<33.5 %>)
工学部	670 [10]	685	776	741	856	—	—	3,058 (306<10.0 %>)		1	1	7	3,067 (307<10.0 %>)
農学部	215	240	236	221	256	—	—	953 (264<27.7 %>)	3	5	1	8	970 (273<28.1 %>)
獣医学部	40	42	42	45	48	41	44	262 (103<39.3 %>)					262 (103<39.3 %>)
水産学部	215	237	231	236	219	—	—	923 (246<26.7 %>)		1	2	10	936 (254<27.1 %>)
合計	2,485 [15] [60]	2,630	2,779	2,763	3,035	200	203	11,610 (3,171<27.3 %>)	16	42	60	62	11,790 (3,264<27.7 %>)

■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
低温科学研究所	1人	1人	一人	一人	2人(1<50.0%>)
電子科学研究所	2	1	—	—	3(1<33.3 %>)
遺伝子病制御研究所	1		—	—	1(0<0.0 %>)
スラブ研究センター	1		—	—	1(1<100.0 %>)
情報基盤センター	3		—	—	3(1<33.3 %>)
総合博物館	1		—	—	1(0<0.0 %>)
留学生センター	1		12	24	37(10<27.0 %>)
高等教育機能開発総合センター	2		—	—	2(1<50.0 %>)
北方生物圏フィールド科学センター	1		—	—	1(0<0.0 %>)
エネルギー変換マテリアル研究センター	2		—	—	2(0<0.0 %>)
観光学高等研究センター	2		—	—	2(2<100.0 %>)
合計	17	2	12	24	55(17<30.9 %>)

資 料

■大学院

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。

研究科名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程					博士課程(博士後期及び博士一貫)					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講生	特別研究生	合計
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数				入学定員	在籍者数									
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次	小計		1年次	2年次	3年次	4年次						
文学研究科	118人	71人	131人	202人 (103/51.0%)	一人	一人	一人	一人	一人	59人	25人	38人	179人	一人	242人 (102/42.1%)	4人	6人	1人	455人 (212/46.6%)	
法学研究科	20	17	27	44 (17/38.6)	100	46	37	51	241 (50/20.7)	15	5	10	30	—	45 (11/24.4)	3	13	4	350 (84/24.0)	
経済学研究科	30	26	25	51 (23/45.1)	20	25	23	—	48 (13/27.1)	15	9	2	34	—	45 (14/31.1)	—	2	3	149 (54/36.2)	
医学研究科	30	28	33	61 (36/59.0)	—	—	—	—	—	100	84	92	105	154	435 (93/21.4)	—	18	1	516 (135/26.2)	
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	39	42	32	30	143 (44/30.8)	—	19	1	163 (52/31.9)	
薬学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	4 (1/25.0)	
工学研究科	340	416	470	886 (96/10.8)	—	—	—	—	—	85	68	74	113	—	255 (31/12.2)	—	16	1	1,161 (129/11.1)	
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	20	27	20	24	91 (24/26.4)	—	9	—	100 (29/29.0)	
情報科学研究科	177	198	231	429 (26/6.1)	—	—	—	—	—	42	50	51	52	—	153 (16/10.5)	—	12	5	601 (44/7.3)	
水産科学院	90	108	106	214 (58/27.1)	—	—	—	—	—	35	21	31	44	—	96 (24/25.0)	—	—	4	314 (84/26.8)	
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1 (0/0.0)	
水産科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	10 (0/0.0)	—	—	—	10 (0/0.0)	
環境科学院	161	136	155	291 (80/27.5)	—	—	—	—	—	64	40	37	76	—	153 (44/28.8)	—	—	3	447 (125/28.0)	
地球環境科学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	7 (1/14.3)	
地球環境科学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	9 (3/33.3)	—	—	—	9 (3/33.3)	
理学院	203	190	222	412 (73/17.7)	—	—	—	—	—	85	66	50	74	—	190 (39/20.5)	—	—	7	609 (114/18.7)	
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	5 (1/20.0)	
理学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	—	23 (4/17.4)	—	—	—	23 (4/17.4)	
農学院	150	148	167	315 (111/35.2)	—	—	—	—	—	50	46	50	56	—	152 (43/28.3)	1	—	—	468 (154/32.9)	
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	—	—	17 (4/23.5)	
農学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	—	17 (3/17.6)	—	—	—	17 (3/17.6)	
生命科学院	135	138	150	288 (104/36.1)	—	—	—	—	—	42	39	36	39	—	114 (29/25.4)	1	—	1	404 (133/32.9)	
先端生命科学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (0/0.0)	
教育学院	45	40	60	100 (56/56.0)	—	—	—	—	—	21	19	14	14	—	47 (25/53.2)	1	—	1	149 (83/55.7)	
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	3 (2/66.7)	
教育学研究科	—	—	4	4 (1/25.0)	—	—	—	—	—	—	—	2	57	—	59 (32/54.2)	—	3	—	66 (33/50.0)	
国際広報メディア・観光学院	42	46	60	106 (69/65.1)	—	—	—	—	—	17	17	13	9	—	39 (15/38.5)	1	—	—	146 (84/57.5)	
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—	20 (14/70.0)	
国際広報メディア研究科	—	—	4	4 (4/100.0)	—	—	—	—	—	—	1	2	12	—	15 (9/60.0)	—	—	—	19 (13/68.4)	
保健科学院	26	32	31	63 (24/38.1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	63 (24/38.1)	
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	4 (1/25.0)	
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	37	47	—	84 (24/28.6)	—	—	—	—	—	—	2	1	—	87 (26/29.9)	
合計	1,567	1,594	1,876	3,470 (881/25.4)	150	161	161	51	373 (87/23.3)	696	549	571	1,005	208	2,333 (605/25.9)	1	12	159	24	6,387 (1,646/25.8)

(学務部教務課)

平成21年度外国人留学生数

【部局別】
学部等

平成21年5月1日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学部留学生	研 究 生	学部留学生	研 究 生	学部留学生	研 究 生	
文 学 部	1 (1)	4 (3)			5 (1)	23 (17)	33 (22)
教 育 学 部					5 (5)	5 (3)	10 (8)
法 学 部					5 (3)	6 (3)	11 (6)
経 済 学 部	2 (2)	2 (1)			5 (3)	25 (16)	34 (22)
理 学 部		2			2	4 (3)	8 (3)
医 学 部					3 (2)		3 (2)
歯 学 部					3 (2)		3 (2)
薬 学 部					2 (2)		2 (2)
工 学 部	8		26 (4)		23 (5)	7 (1)	64 (10)
農 学 部					4	10 (8)	14 (8)
獣 医 学 部					1		1 (0)
水 産 学 部					3 (1)	9 (7)	12 (8)
合 計	11 (3)	8 (4)	26 (4)		61 (24)	89 (58)	195 (93)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研 究 生	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研 究 生	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研 究 生	
文 学 研 究 科	3(3)		9(4)	1(1)					31(23)		24(18)	2(2)	70(51)
法 学 研 究 科	2(1)		1	2(1)					23(6)		13(4)	15(4)	56(16)
経 済 学 研 究 科			1						25(14)	1	7(2)	2(1)	36(17)
医 学 研 究 科	1(1)		12(4)	1					1(1)		5(1)		20(7)
歯 学 研 究 科			4(1)				1(1)				3(1)		8(3)
工 学 研 究 科	30(9)		39(6)	1			4	3	12(3)		31(10)	6(1)	126(29)
獣 医 学 研 究 科			19(6)								8(2)	6(2)	33(10)
情 報 科 学 研 究 科	1(1)		17(1)	4			2(1)		20(3)		16(7)	6(2)	66(15)
水 産 科 学 院	1		13(6)						5(3)		14(6)	4(2)	37(17)
環 境 科 学 院	3(2)		10(1)					1	13(6)		22(9)		49(18)
地 球 環 境 科 学 研 究 科											1		1
理 学 院	4(2)		11(4)				1		4(3)		22(12)	2	44(21)
薬 学 研 究 院												2	2
農 学 院	13(9)		33(12)		1				8(5)		23(8)		78(34)
農 学 研 究 院				2(1)								4(2)	6(3)
生 命 科 学 院			6(3)						7(4)		7(5)		20(12)
教 育 学 院			1(1)				1(1)		20(15)		5(3)		27(20)
教 育 学 研 究 院												2(2)	2(2)
教 育 学 研 究 科											3(2)		3(2)
国際広報メディア・観光学院			2(1)						36(27)		4(3)		42(31)
メディア・コミュニケーション研究院				1(1)								18(12)	19(13)
国際広報メディア研究科											1(1)		1(1)
公 共 政 策 学 教 育 部												1	1
低 温 科 学 研 究 所												1	1
電 子 科 学 研 究 所												1(1)	1(1)
ス ラ ブ 研 究 セ ン タ ー				1(1)									1(1)
情 報 基 盤 セ ン タ ー												3(1)	3(1)
留 学 生 セ ン タ ー												1(1)	1(1)
高等教育機能開発総合センター												2(1)	2(1)
エネルギー変換マテリアル研究センター												2	2
観光学高等研究センター												1(1)	1(1)
合 計	58(28)		178(50)	13(5)	1		8(2)	5(1)	205(113)	1	209(94)	81(35)	759(328)

日本語研修生等

留 学 生 セ ン タ ー	日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生		日 本 語 研 修 生		合 計
	国 費	私 費	国 費	私 費	
	7 (2)	5 (4)	24 (3)		36 (9)

外国人留学生総数

学 部 留 学 生 数	大 学 院 留 学 生			研 究 生 等	日 本 語 研 修 生 日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生	留 学 生 総 数
	修 士 課 程	専 門 職 学 位 課 程	博 士 課 程			
98 (31)	264 (141)	1	395 (146)	196 (103)	36 (9)	990 (430)

- * () 内は女子を内数で示す。
- * 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。
- * 研究生等には特別聴講学生、科目等履修生を含む。

(学術国際部留学交流課)

平成20年度卒業生・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

【学 部】

平成 21 年 5 月 1 日現在

学 部 項 目	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	医学科	保健学科							
(A) 卒業生数	(107) 212	(31) 60	(82) 224	(63) 190	(62) 314	(20) 88	(124) 206	(20) 60	(30) 75	(67) 709	(73) 212	(12) 41	(73) 218	(764) 2,609
(B) 就職希望者数	(88) 161	(24) 45	(49) 139	(49) 161	(14) 76	(97) 148	(97) 148	(5) 11	(5) 106	(16) 106	(23) 67	(10) 29	(21) 64	(396) 1,007
(C) 就職者数	(82) 145	(22) 37	(48) 131	(49) 159	(12) 67	(97) 148	(97) 148	(5) 11	(16) 102	(20) 57	(10) 28	(10) 28	(20) 63	(381) 948
うち 道外就職者	(44) 93	(14) 23	(26) 71	(29) 109	(9) 44	(32) 48	(32) 48	(3) 8	(14) 83	(14) 46	(9) 26	(9) 26	(14) 46	(208) 597
うち 有職者							1							1
(D) 就職率(%)	(93.2) 90.1	(91.7) 82.2	(98.0) 94.2	(100.0) 98.8	(85.7) 88.2	- -	(100.0) 100.0	- -	(100.0) 100.0	(100.0) 96.2	(87.0) 85.1	(100.0) 96.6	(95.2) 98.4	(96.2) 94.1
(E) 進学者数	[8] (10) [24] 28	[5] (6) [10] 13	[17] (23) [37] 52	[11] (12) [16] 17	[44] (47) [208] 228	[12] (19) [35] 47	[12] (19) [35] 47	[23] (24) [61] 63	[47] (51) [562] 586	[48] (49) [121] 134	[1] (1) [8] 11	[40] (46) [127] 141	[256] (288) [1208] 1,320	
うち 大学院	[8] (9) [24] 27	[5] (6) [10] 13	[17] (22) [37] 51	[11] (12) [16] 17	[44] (47) [208] 228	[12] (17) [35] 45	[12] (17) [35] 45	[23] (24) [61] 63	[47] (51) [562] 586	[48] (48) [121] 133	[1] (1) [8] 11	[40] (46) [127] 141	[256] (283) [1208] 1,315	
うち 大学	(1) 1		(1) 1			(2) 2	(2) 2			(1) 1			(5) 5	
うち 就職している者														
(F) その他	(15) 39	(3) 10	(11) 41	(2) 14	(3) 19	(20) 88	(8) 11	(20) 60	(1) 1	21	(4) 21	(1) 2	(7) 14	(95) 341

・ A = C + E + F

・ D = C ÷ B × 100

・ 上段 () は、女子で内数 / 就職率 () は、女子の就職率

・ 進学者数 [] は、本学進学者で内数。

◇医学部については、卒業後2年間の研修期間がある。

◇歯学部については、卒業後1年間の研修期間がある。

※獣医学部の道外就職者数には、「4. 地域別就職状況」の就職先詳細不明者のうち道外就職者2名を含めている。

【修士課程】

研究科(学院) 項 目	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	情報科学 研究科	水産科学院 *	環境科学院 *	理学院 *	農学院	生命科学院	教育学院 *	国際広報メディア ・観光学院 *	合計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	(39) 85	(9) 19	(10) 32	(14) 24	(50) 392	(9) 177	(25) 82	(25) 118	(35) 185	(51) 159	(53) 123	(15) 34	(23) 39	(358) 1,469
(B) 就職希望者数	(16) 48	(3) 9	(7) 22	(8) 15	(46) 355	(6) 142	(18) 64	(15) 88	(29) 142	(42) 131	(42) 92	(9) 21	(11) 22	(252) 1,151
(C) 就職者数	(13) 40	(3) 9	(5) 19	(6) 13	(45) 349	(6) 142	(18) 63	(15) 86	(29) 138	(37) 122	(42) 91	(9) 18	(10) 20	(238) 1,110
うち 道外就職者	(6) 30	(2) 8	(3) 13	(1) 4	(40) 326	(5) 123	(16) 53	(14) 74	(24) 117	(34) 107	(35) 76	(3) 3	(5) 11	(188) 945
うち 有職者				(3) 5					1			(5) 10	(2) 7	(10) 25
(D) 就職率(%)	(81.3) 83.3	(100.0) 100.0	(71.4) 86.4	(75.0) 86.7	(97.8) 98.3	(100.0) 100.0	(100.0) 98.4	(100.0) 97.7	(100.0) 97.2	(88.1) 93.1	(100.0) 98.9	(100.0) 85.7	(90.9) 90.9	(94.4) 96.4
(E) 進学者数	[8] (8) [17] 17	[2] (2) [3] 3	[1] (1) [5] 5	[5] (5) [7] 8	[2] (2) [28] 30	[2] (2) [30] 31	[4] (4) [9] 10	[4] (7) [17] 21	[6] (6) [38] 39	[8] (8) [21] 23	[10] (11) [29] 31	[4] (4) [8] 9	[5] (5) [9] 9	[61] (65) [221] 236
うち 大学院	[8] (8) [17] 17	[2] (2) [3] 3	[1] (1) [5] 5	[5] (5) [7] 8	[2] (2) [28] 29	[2] (2) [30] 31	[4] (4) [9] 10	[4] (7) [17] 21	[6] (6) [38] 39	[8] (8) [21] 23	[10] (11) [29] 31	[4] (4) [8] 9	[5] (5) [9] 9	[61] (65) [221] 235
うち 大学														1
うち 就職している者					1							(1) 1	(1) 2	(2) 3
(F) その他	(18) 28	(4) 7	(4) 8	(3) 3	(3) 13	(1) 4	(3) 9	(3) 11	(3) 8	(6) 14	1	(2) 7	(8) 10	(55) 123

・ A = C + E + F

・ D = C ÷ B × 100

・ 上段 () は、女子で内数 / 就職率 () は、女子の就職率

・ 進学者数 [] は、本学進学者で内数。

* : ◇水産科学院には、水産科学研究科修了者1名(うち女子0名)を含む。

◇環境科学院には、地球環境科学研究科修了者1名(うち女子0名)を含む。

◇理学院には、理学研究科修了者2名(うち女子0名)を含む。

◇教育学院には、教育学研究科修了者9名(うち女子5名)を含む。

◇国際広報メディア・観光学院には、国際広報メディア研究科修了者6名(うち女子4名)を含む。

※環境科学院の道外就職者数には、「4. 地域別就職状況」の就職先詳細不明者のうち道外就職者4名を含めている。

資 料

【専門職大学院】

項目	研究科等	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合計
		人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数		(24) 107	(3) 21	(4) 26	(31) 154
(B) 就職希望者数		3	(1) 7	(3) 25	(4) 35
(C) 就職者数		3	(1) 7	(3) 25	(4) 35
	うち 道外就職者	3	5	(2) 17	(2) 25
	うち 有職者			(1) 8	(1) 8
(D) 就職率(%)		- 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0
(E) 進学者数					0
	うち 大学院				0
	うち 大学				0
	うち 就職している者				(2) 3
(F) その他		(24) 104	(2) 14	(1) 1	(27) 119

- ・ A=C+E+F
- ・ D=C÷B×100
- ・ 上段()は、女子で内数 / 就職率()は、女子の就職率
- ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。

◇法科大学院の(F)その他には、修了後に実施される新司法試験の受験準備者を含む。

【博士課程】

項目	研究科(学院)																	合計
	文学研究科	教育学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	薬学研究科	工学研究科	獣医学研究科	国際薬学・歯学研究科	情報科学研究科	水産科学院*	環境科学院*	理学院*	農学院*	生命科学学院		
(A) 修了者数	[6] (9) [24] 44	[4] (8) [9] 16	[5] (6) [11] 15	[1] (2) [5] 10	[1] (17) [1] 71	[0] (11) [0] 33	[0] (1) [0] 6	[1] (9) [15] 64	[1] (5) [5] 19	[1] (4) [1] 6	[1] (6) [6] 39	[1] (6) [4] 26	[0] (8) [6] 31	[2] (7) [15] 54	[1] (7) [11] 51	[0] (3) [2] 18	[25] (109) [115] 503	
(B) 就職希望者数	(1) 14	(3) 6	(1) 5	(1) 2	(10) 51	(6) 22	(1) 5	(8) 47	(4) 12	(3) 5	(5) 29	(4) 14	(1) 10	(4) 24	(2) 31	(3) 14	(59) 291	
(C) 就職者数	(1) 12	(3) 6	(1) 5	(1) 2	(10) 49	(6) 22	(1) 5	(6) 45	(4) 12	(1) 2	(5) 29	(4) 14	(1) 9	(4) 20	(2) 21	(3) 13	(53) 266	
	うち 道外就職者	(1) 5	(1) 2	(1) 1	(2) 10	(1) 4	(1) 5	(5) 37	(4) 8		(5) 22	(4) 11	(1) 8	(4) 14	(2) 14	(2) 11	(34) 154	
	うち 有職者	(3) 5			(2) 12		(2) 3	(2) 19		(1) 2	(1) 11	(1) 5	(1) 4	(1) 6			(10) 70	
(D) 就職率(%)	(100.0) 85.7	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 96.1	(100.0) 100.0	(75.0) 100.0	(100.0) 95.7	(100.0) 100.0	(33.3) 40.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 90.0	(80.0) 83.3	(66.7) 67.7	(100.0) 92.9	(89.8) 91.4	
(E) 進学者数																	0	
	うち 大学院																0	
	うち 大学																0	
	うち 就職している者																0	
(F) その他	(8) 32	(5) 10	(5) 10	(1) 8	(7) 22	(5) 11	1	(3) 19	(1) 7	(3) 4	(1) 10	(2) 12	(7) 22	(3) 34	(5) 30	5	(56) 237	

- ・ A=C+E+F
- ・ D=C÷B×100
- ・ 上段()は、女子で内数 / 就職率()は、女子の就職率
- ・ 博士の修了者数()は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める)
- ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。

* : ◇水産科学院には、水産科学研究科修了者4名(うち女子0名)を含む。
 ◇環境科学院には、地球環境科学研究科修了者4名(うち女子1名)を含む。
 ◇理学院には、理学研究科修了者26名(うち女子4名)を含む。
 ◇農学院には、農学研究科修了者22名(うち女子4名)を含む。

平成21年5月1日現在

2. 職業別就職状況
【学部】

職業別分類	学部	文学部 就職者数	教育学部 就職者数	法学部 就職者数	経済学部 就職者数	理学部 就職者数	医学部		歯学部 就職者数	薬学部 就職者数	工学部 就職者数	農学部 就職者数	獣医学部 就職者数	水産学部 就職者数	合計 職業別就職者数
							医学科 就職者数	保健学科 就職者数							
科学研究者						1 (1)		1			2	5	12 (5)		21 (6)
農林水産業・食品技術者											1	7 (2)	3	13 (2)	24 (4)
機械						2					22 (4)	2 (2)		2	28 (6)
電気											5				5
その他															0
化学						1 (1)				2					3 (1)
その他															0
建築・土木・測量											29 (5)	1		1 (1)	31 (6)
情報処理技術者		15 (8)	5 (3)	5 (4)	4 (1)	9				13 (3)	1 (1)			4	56 (20)
その他の技術者						5 (2)		1		7 (2)	1			1 (1)	15 (5)
専門的・技術的職業従事者															0
幼稚園															0
小学校															0
中学校			2 (1)			3									5 (1)
高等学校		3 (2)	1			3								1	8 (2)
中等教育学校			2												2
高等専門学校															0
短期大学															0
大学															0
特別支援学校			1												1
その他			1 (1)	1 (1)											2 (2)
医師、歯科医師													8 (4)		8 (4)
獣医師															7 (4)
薬剤師															72 (66)
保健師、看護師															56 (26)
医療技術者															15 (4)
栄養士			1 (1)												16 (5)
その他の保健医療従事者															0
美術・写真・デザイナー・音楽・舞台		3 (2)	4 (1)	2 (1)	5 (1)	1				1					4 (2)
その他		5 (2)				5 (2)				1	3 (1)			4 (2)	25 (8)
管理的職業															6 (2)
事務従事者		70 (41)	16 (11)	61 (20)	144 (44)	15 (2)		3 (1)		8 (1)	17 (6)	4 (1)	25 (9)	363 (136)	
販売従事者		44 (23)	4 (4)	3 (1)		9 (2)			3 (1)	3	13 (5)	1	10 (4)	90 (40)	
サービス職業		2 (2)		55 (19)		4 (1)				1 (1)	1 (1)			63 (24)	
保安職業		2 (2)		3 (2)		2				3	1 (1)		1 (1)	12 (6)	
農林漁業従事者												2		2	
農林業従事者									1					0	
漁業従事者		1		1						3	2 (1)			8 (1)	
運輸・通信														0	
生産工程・労務従事者														0	
上記以外					6 (3)	7 (1)				1				1	15 (4)
合計		145 (82)	37 (22)	131 (48)	159 (49)	67 (12)	0	148 (97)	0	11 (5)	102 (16)	57 (20)	28 (10)	63 (20)	948 (381)

※ () は女子で内数

【専門職大学院】

職業別分類	研究科等				合計
	法科大学院 (法学研究科) 就職者数	会計専門職大学院 (経済学研究科) 就職者数	公共政策大学院 (公共政策学教育部) 就職者数	職業別就職者数	
科学研究者				0	
農林水産業・食品技術者				0	
機械				0	
機械・電気技術者				0	
その他				0	
化学				0	
その他				0	
鉱工業技術者				4	
建築・土木・測量			4	0	
情報処理技術者				0	
その他の技術者				0	
幼稚園				0	
小学校				0	
中学校				0	
高等学校				0	
中等教育学校				0	
高等専門学校				0	
短期大学				0	
大学				0	
特別支援学校				0	
その他				0	
医師、歯科医師				0	
獣医師、薬剤師				0	
保健師、助産師、看護師				0	
医療技術者				0	
その他の保健医療 従事者				0	
栄養士				0	
その他				0	
美術・写真・デザイン・音楽・舞台				0	
その他				0	
管理職	4	(1)		4	
事務従事者			1	1	
販売従事者	2	1	17	20	
サービス職業			(3)	(3)	
保安職業				0	
農林漁業従事者			2	2	
農林漁業従事者			1	1	
漁業従事者				0	
運輸・通信				0	
生産工程・労務従事者				0	
上記以外	1	2		3	
合計	3	7	25	35	
		(1)	(3)	(4)	

※ () は女子で内数

資 料

【博士課程】

職業別分類	研究科（学院）														合計	
	文学研究科	教育学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	薬学研究科	工学研究科	獣医学研究科	農工研究科	農学研究科	環境科学*	理学院*	農学院*		生命科学
科学研究者					2											59
農林水産業・食品技術者																11
機械								12 (1)								15
電気								2								14
その他																1
化学								1					1 (1)			5
その他								7 (2)					1			0
建築・土木・測量								2					1			8
情報処理技術者													1			10
その他の技術者					3 (1)			7 (1)						2 (1)		13
専門的・技術的職業従事者																0
幼稚園																0
小学校																0
中学校	1	1														2
高等学校	1															3
中等教育学校																0
高等専門学校																2
短期大学																0
大学	7 (1)	5 (3)	5 (1)	2 (1)	8 (2)	1 (1)		8 (2)						3	2	50
特別支援学校																1
その他																0
医師、歯科医師、獣医師、薬剤師					34 (7)	16 (4)										50
獣医師、薬剤師					1											0
保健師、助産師、看護師																0
医療技術者																0
その他の保健医療																0
栄養士					1											1
その他																1
従事者																1
美術・写真・デザイナー・音楽・舞台																1
その他																3
管理的職業																1
事務従事者	2															8
販売従事者	1															1
サービス職業																0
保安職業																0
農林漁業作業者																0
農業作業者																0
運輸・通信																0
生産工程・労務作業者																0
上記以外																5
合計	12 (1)	6 (3)	5 (1)	2 (1)	49 (10)	22 (6)	5 (1)	45 (6)	12 (4)	2 (1)	29 (5)	14 (4)	9 (1)	20 (4)	21 (2)	266 (53)

※（ ）は女子で内数

*：◇水産科学院には、水産科学研究科修了者を含む。
 ◇環境科学院には、地球環境科学研究科修了者を含む。
 ◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
 ◇農学院には、農学研究科修了者を含む。

平成21年5月1日現在

3. 産業別就職状況

【学部】

産業別分類	学部											合計					
	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部	工学部	農学部		観光学部	水産学部			
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
農業, 林業																	5
漁業																	0
鉱業, 採石業, 砂利採取業			1 (1)														2 (1)
建設業	2 (1)	3 (3)	1 (1)	8 (2)	1 (1)												16 (4)
食品・飲料・たばこ・飼料製造業																	40 (16)
繊維工業業																	0
印刷・同梱造業	5 (3)	2 (2)	2 (2)	4 (2)	1												15 (10)
化学工業、石油・石炭製品製造業	3		1	2	4 (1)												17 (3)
鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	1		2	5	2 (1)												14 (1)
はん用・生産用・業務用機械器具製造業			1	6	1												14 (2)
電子部品・デバイス・電子回路製造業	3 (1)				1												7 (2)
電気・情報通信機械器具製造業		4 (2)	2 (1)	12 (4)													31 (10)
輸送用機械器具製造業			2 (1)	10 (1)	1												23 (2)
その他の製造業			2 (1)	5 (1)	1												13 (3)
電気・ガス・熱供給・水道業	1		9 (1)	6 (2)													20 (3)
情報通信業	20 (12)	5 (3)	9 (5)	17 (7)	9 (1)												85 (34)
運輸業、郵便業	11 (5)	2 (1)	3 (1)	1	1												33 (11)
卸売業	4 (1)		2	5 (1)													20 (4)
小売業	21 (16)			3 (2)	3 (1)												34 (23)
金融業	14 (7)	4 (2)	26 (8)	32 (11)	8 (1)												98 (32)
保険業	8 (5)	1 (1)	6 (3)	7 (1)	4												28 (10)
不動産取引・賃貸・管理業	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3												11 (8)
物品賃貸業																	0
学術・開発研究機関					1 (1)												3 (2)
学術・技術サービス業			2 (1)														2 (1)
その他の専門・技術サービス業	7	1		6 (2)	2 (1)												26 (7)
宿泊業、飲食サービス業			1		1												3
生活関連サービス業、娯楽業	3 (2)			1	1 (1)												7 (4)
学校教育	7 (4)	7 (3)	4 (1)	2 (1)	6												28 (9)
学習支援業	2 (2)	3 (2)	1 (1)	3 (1)	1												13 (7)
医療業、保健衛生	1 (1)		2														154 (96)
福祉		2 (1)															7 (3)
複合サービス事業	3 (2)		2	3 (1)													12 (4)
宗教																	0
その他のサービス業	4 (2)		12 (5)		2 (1)												27 (10)
国家公務	4 (3)		13 (6)	3 (1)	4 (2)												38 (14)
地方公務	18 (12)	1 (1)	22 (8)	12 (5)	7 (1)												99 (45)
上記以外					2												3
合計	145 (82)	37 (22)	131 (48)	159 (49)	67 (12)	0	148 (97)	0	11 (5)	102 (16)	57 (20)	28 (10)	63 (20)				948 (381)

※ () は女子で内数

【修士課程】

産業別分類	研究科(学院)	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	情報科学研究科	水産科学研究科	環境科学研究科	理学院*	農学院	生命科学学院	教育学院*	国際広報メディア・観光学*	合計
		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	産業別就職者数
農業, 林業									1		4 (1)			1 (1)	6 (2)
漁業												1			1
鉱業, 採石業, 砂利採取業										4					10
建設業										3	4 (1)				46 (9)
製 造	食品・飲料・たばこ・飼料製造業							1	4 (1)						77 (22)
	繊維工業							3 (1)	3	1	2				7 (2)
造 業	印刷・関連業							3 (2)	1 (1)	3	1 (1)	1			11 (5)
	化学工業、石油・石炭製品製造業			2 (1)		41 (11)	2	11 (4)	6	15 (6)	19 (11)	21 (7)		2 (1)	120 (42)
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	1				33 (2)	5		2						42 (2)
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業			1		25 (2)	10 (1)	6	1		10 (2)				53 (5)
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1				11	6	1 (1)	2	11 (3)	1				33 (4)
	電気・情報通信機械器具製造業			1		48 (3)	54 (1)		2	12 (3)	1 (1)	1	1 (1)	3 (2)	124 (12)
	輸送用機械器具製造業					47 (7)	16 (1)	2 (1)	3	4	1				75 (10)
	その他の製造業					13 (1)	3		7 (1)	15 (1)	1	21 (11)			60 (14)
	電気・ガス・熱供給・水道業					20 (2)	8		4 (2)	2	1				35 (4)
	情報通信業			2		10 (3)	27 (2)	6 (1)	8 (1)	23 (5)	3 (2)				90 (21)
卸売業			1 (1)		10	2	1 (1)	1	1	2	1			22 (2)	
小売業					5	1		4	3	3	1 (1)			23 (2)	
金融業					2 (1)		2 (1)	1	1	1	2 (1)			12 (5)	
保険業					1		1	3	3	1	1	1 (1)		16 (1)	
不動産業、不動産取引・賃貸・管理業					2			2	2		1 (1)			6 (2)	
物品賃貸業								2	1					5	
学術・開発研究機関								1						0	
法律									2	1 (1)	1			8 (1)	
その他の専門・技術サービス業								3 (2)	7 (1)	5 (3)	3 (3)	1	3	46 (14)	
宿泊業、飲食サービス業、娯楽業								1 (1)	1 (1)		2 (1)			4 (3)	
教育								1	2 (1)	1	1	1	10 (4)	2 (1)	6 (2)
医療									3	2		13 (9)	1 (1)	1 (1)	18 (12)
福祉													2 (1)		2 (1)
複合サービス事業								3	1 (1)		5 (1)			9 (2)	
宗教															0
その他のサービス業									3 (1)	1	9 (2)		1		21 (4)
国家公務									7 (2)	2	9 (2)				29 (6)
地方公務									3 (2)	5 (2)	9 (3)	3 (1)		1	36 (10)
上記以外									3	1		2 (2)			10 (3)
合計		40 (13)	9 (3)	19 (5)	13 (6)	349 (45)	142 (6)	63 (18)	86 (15)	138 (29)	122 (37)	91 (42)	18 (9)	20 (10)	1,110 (238)

※ () は女子で内数

- * : ◇水産科学院には、水産科学研究科修了者を含む。
- ◇環境科学院には、地球環境科学研究科修了者を含む。
- ◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
- ◇教育学院には、教育学研究科修了者を含む。
- ◇国際広報メディア・観光学院には、国際広報メディア研究科修了者を含む。

【専門職大学院】

産業別分類	研究科等				合 計
	法政大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	産業別就職者数	
農業, 林業					0
漁業					0
鉱業, 採石業, 砂利採取業					0
建設業			2		2
製 造	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業				0
	繊維工業				0
	印刷・同関連業				0
	化学工業、石油・石炭製品製造業				0
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業				0
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業				0
	電子部品・デバイス・電子回路製造業				0
	電気・情報通信機械器具製造業			1	1
	輸送用機械器具製造業				0
	その他の製造業	1			1
電気・ガス・熱供給・水道業		1	3	4	
情報通信業			(1)	(1)	
運輸業, 郵便業				0	
卸売業				0	
小売業				0	
金融業		1		2	
保険業				0	
不動産取引・賃貸・管理業				0	
物品賃貸業				0	
学術研究機関				0	
法律				0	
その他の専門・技術サービス業		5	(1)	5	
宿泊業、飲食サービス業				0	
生活関連サービス業、娯楽業				0	
教育				0	
学習支援業				0	
医療業、保健衛生				0	
福祉				0	
社会保険・福祉・介護事業				0	
複合サービス事業				0	
サービス業				0	
宗教				0	
その他のサービス業			2	2	
国家公務	1		4	5	
地方公務	1		12	13	
上記以外				0	
合 計	3	7	25	35	
		(1)	(3)	(4)	

※ () は女子で内数

資 料

【博士課程】

産業別分類	研究科(学院)	文学研究科 就職者数	教育学研究科 就職者数	法学研究科 就職者数	経済学研究科 就職者数	医学研究科 就職者数	歯学研究科 就職者数	薬学研究科 就職者数	工学研究科 就職者数	獣医学研究科 就職者数	国際連行/了 研究科 就職者数	情報科学研究科 就職者数	水産科学研究科 就職者数	環境科学研究科 就職者数	理学院* 就職者数	農学院* 就職者数	生命科学 就職者数	合計 産業別就職者数
農業、林業															1			1
漁業																		0
鉱業、採石業、砂利採取業									1									1
建設業									5 (1)				1		5	1		5 (1)
製	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業					1												1
	繊維工業																	0
造	印刷・関連業																	0
	化学工業、石油・石炭製品製造業				2 (1)	1			6						4 (1)		5	21 (3)
業	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業								1						2 (1)			5 (1)
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業								3						2			2
	電子部品・デバイス・電子回路製造業								5 (1)						2			5
	電気・情報通信機械器具製造業								3						2			14 (3)
	輸送用機械器具製造業	1							3						1		3 (2)	7
	その他の製造業								3									4 (2)
	電気・ガス・熱供給・水道業																	3
	情報通信業																	8 (2)
	運輸業、郵便業								2									2
	卸売業																	2
小売業																	1 (1)	
金融業																	0	
保険業																	0	
不動産業、不動産取引・賃貸・管理業																	0	
物品賃貸業																	0	
学術研究・学術・開発研究機関			2						4						3 (2)	1	4	24 (5)
技術サービス業									2 (1)								3 (1)	8 (3)
宿泊業、飲食サービス業																	0	
生活関連サービス業、娯楽業																	1 (1)	1 (1)
教育		9 (1)	6 (3)	5 (1)	2 (1)	9 (3)	1 (1)	8 (2)	8				3 (1)	1	2	5 (1)	2	63 (15)
学芸娯楽																		0
医療						36 (7)	15 (4)											55 (13)
複合サービス事業																		0
カブシキ 会社 その他(別 表)																		0
宗教																		0
その他のサービス業		1													1			3
国家公務									3									6 (1)
地方公務																		9
上記以外									2 (1)									7 (2)
合計		12 (1)	6 (3)	5 (1)	2 (1)	49 (10)	22 (6)	5 (1)	45 (6)	12 (4)	2 (1)	29 (5)	14 (4)	9 (1)	20 (4)	21 (2)	13 (3)	266 (53)

※ () は女子で内数
 * : ◇水産科学研究院には、水産科学研究科修了者を含む。
 ◇環境科学研究院には、地球環境科学研究科修了者を含む。
 ◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
 ◇農学院には、農学研究科修了者を含む。

4. 地域別就職状況
【学部】

平成21年5月1日現在

企業の所在地	学部		教育学部 就職者数	法学部 就職者数	経済学部 就職者数	理学部 就職者数	医学部		歯学部 就職者数	薬学部 就職者数	工学部 就職者数	農学部 就職者数	獣医学部 就職者数	水産学部 就職者数	合計
	就職者数	保勉学科 就職者数					医学科 就職者数	保健学科 就職者数							
北海道	40 (29)		11 (7)	36 (13)	47 (17)	23 (3)	76 (50)				17 (2)	9 (5)	2 (1)	10 (5)	272 (133)
札幌市以外	12 (9)		3 (1)	24 (9)	3 (3)		24 (15)				3 (2)	2 (1)	6 (1)	6 (1)	78 (40)
青森県	1			1			2 (1)				1				6 (2)
岩手県															0
宮城県	2				2 (1)	1	1				1	1	1		9 (1)
秋田県	4 (3)														4 (3)
山形県															0
福島県	1 (1)			1	1										3 (1)
茨城県															1
栃木県	1			1		1					1 (1)	1			5 (1)
群馬県	1 (1)			3 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (1)					1			2
埼玉県	1 (1)					2 (1)	5 (3)								10 (5)
千葉県	64 (28)		18 (11)	45 (16)	68 (17)	28 (4)	20 (16)				59 (10)	28 (10)	12 (4)	32 (7)	379 (124)
東京都	3 (1)		1 (1)		2 (2)	3 (1)	3 (2)				5 (3)	4 (2)		3 (2)	24 (14)
神奈川県															0
新潟県															0
富山県	1 (1)			1 (1)	1 (1)	1	1 (1)								5 (4)
石川県			1 (1)	1	3		1 (1)								6 (2)
福井県															0
山梨県															0
長野県				1											1
岐阜県															0
静岡県				3 (2)	3 (1)		4 (1)				2	1	1 (1)	2 (1)	16 (6)
愛知県	3 (2)		1	3 (1)	10 (2)	3	1 (1)				3	3	4 (2)	5 (3)	35 (10)
三重県							1 (1)								1 (1)
滋賀県															0
京都府	1				1 (1)	1 (1)							2		5 (2)
大阪府	4 (3)		1	10 (5)	10 (1)	3 (1)	3 (3)				5 (1)	4 (2)	1	3 (1)	44 (17)
兵庫県					2 (1)		1 (1)				1 (1)				5 (3)
奈良県															0
和歌山県															0
鳥取県												1			1
島根県															0
岡山県			1 (1)				1 (1)								2 (2)
広島県	1									1					2
山口県															0
徳島県															0
香川県					1		1							1	3
愛媛県	3 (2)														3 (2)
高知県					2										0
福岡県	1									2		1	1 (1)		5
佐賀県												1			2 (1)
長崎県															1
熊本県															0
大分県															0
宮崎県															0
鹿児島県					1										1
沖縄県	1 (1)														2 (1)
海外															2
就職先詳細不明															2
合計	145 (82)		37 (22)	131 (48)	159 (49)	67 (12)	148 (97)	0	11 (5)	102 (16)	57 (20)	28 (10)	63 (20)	948 (381)	

※ () は女子で内数
(注意) 理学部は札幌市・札幌市以外を区別せず「北海道」として調査のため、便宜上「札幌市」に計上し集計。
※詳細不明の2名は道外である。

資 料

【修士課程】

企業の所在地	研究科(学院)		文学研究科		法学研究科		経済学研究科		医学研究科		工学研究科		情報科学研究科		水産科学研究科*		環境科学研究科*		理学院*		農学院		生命科学学院		教育学院*		国際経済学・観光学*		合計							
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数								
北海道	札幌市	8 (6)	1 (1)	4 (1)	9 (5)	18 (2)	16 (1)	8 (1)	9 (3)	9 (1)	9 (4)	9 (1)	9 (4)	7 (4)	8 (5)	115	36																			
	札幌市以外	2 (1)		5 (3)		4	3	4	12 (2)	6 (2)	6 (3)	6 (2)	8 (2)	1	48	13																				
	青森県			4					2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)																								
東北	岩手県					2																														
	宮城県				1 (1)																															
	秋田県																																			
関東	山形県																																			
	福島県																																			
	茨城県					4	2																													
関東	栃木県					1																														
	群馬県	1																																		
	埼玉県	1																																		
関東	千葉県	1																																		
	東京都	18 (4)	2	7 (2)	3	208 (23)	84 (3)	38 (13)	44 (9)	68 (16)	68 (23)	41 (17)	1 (1)	7 (3)	589	114																				
	神奈川県	1				18 (2)	7 (1)	1	15	4 (1)	2 (1)	2 (1)	47	5																						
北陸	新潟県																																			
	富山県					1																														
	石川県					1																														
中部	福井県																																			
	山梨県																																			
	長野県					3																														
近畿	岐阜県																																			
	静岡県	1		1		4 (1)	1	1	3	1	1 (1)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	15	4																				
	愛知県	1				27 (5)	8	2	7 (1)	6	7 (2)	1 (1)	61	10																						
近畿	三重県	1				1																														
	滋賀県	1				4 (1)	3			2 (1)	1	2 (1)	11	2	11	2	13	9																		
	京都府	2 (1)		3 (1)		27 (5)	10 (1)	3	6	7 (2)	11 (2)	82	21																							
中国	兵庫県					10 (2)	1	1	1	2 (1)	1	17	3																							
	奈良県																																			
	和歌山県																																			
中国	鳥取県																																			
	島根県																																			
	岡山県					1																														
四国	広島県					2																														
	山口県					1																														
	徳島県																																			
九州	香川県					1																														
	愛媛県																																			
	高知県																																			
九州	福岡県	1				3 (1)																														
	佐賀県																																			
	長崎県																																			
九州	熊本県																																			
	大分県																																			
	宮崎県																																			
沖縄	鹿児島県																																			
	沖縄県																																			
	海外	2 (1)	3 (2)	1		2																														
就職先詳細不明			2 (1)																																	
合計	40 (13)	9 (3)	19 (5)	13 (6)	349 (45)	142 (6)	63 (18)	86 (15)	138 (29)	122 (37)	91 (42)	18 (9)	20 (10)	1,110	238																					

※ () は女子で内数
 * : ◇水産科学研究科修了者を含む。
 ◇環境科学研究科修了者を含む。
 ◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
 ◇教育大学院には、教育学研究科修了者を含む。
 ◇国際広報メディア・観光学には、国際広報メディア研究科修了者を含む。

※詳細不明の4名は道外である。

【専門職大学院】

企業の所在地	法科大学院 (法学研究科)		会計専門職大学院 (経済学研究科)		公共政策大学院 (公共政策学教育部)		合計	
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	地域別就職者数	就職者数
北海道								
札幌市								
札幌市以外		2				5	7	(2)
青森県						3	3	
岩手県						1	1	
宮城県							0	
秋田県							0	
山形県							0	
福島県							0	
茨城県							0	
栃木県			1				1	
群馬県						1	1	
埼玉県	1						1	
千葉県	1						1	
東京都			4			12	16	(2)
神奈川県	1						1	
新潟県							0	
富山県							0	
石川県						1	1	
福井県							0	
山梨県							0	
長野県							0	
岐阜県							0	
静岡県							0	
愛知県							0	
三重県							0	
滋賀県							0	
京都府						1	1	
大阪府							0	
兵庫県							0	
奈良県							0	
和歌山県							0	
鳥取県							0	
島根県							0	
岡山県							0	
広島県							0	
山口県							0	
徳島県							0	
香川県							0	
愛媛県						1	1	
高知県							0	
福岡県							0	
佐賀県							0	
長崎県							0	
熊本県							0	
大分県							0	
宮崎県							0	
鹿児島県							0	
沖縄県							0	
海外							0	
就職先詳細不明							0	
合計	3	7				25	35	(4)

※()は女子で内数

資 料

【博士課程】

企業の所在地	文学研究科		教育学研究科		法学研究科		経済学研究科		医学研究科		歯学研究科		薬学研究科		工学研究科		農医学研究科		国際応用研究科		情報科学研究科		水産科学研究科		環境科学研究科		理学院*		農学院*		生命科学院		合計							
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数						
北海道	5	2 (1)	2 (2)	4					24 (6)	15 (2)	1				6	2 (1)	3	2 (1)	2 (1)	4	3	1	4	3	1	2	4	4	2	2 (1)	43 (7)									
東北	1 (1)											1																												
関東									2	1			2 (1)	2 (1)	19 (3)	4 (3)	9 (2)	1 (1)	4 (1)	6 (1)	3 (1)	1	1	1	1	1	1	3 (1)	6 (1)	55 (14)										
北陸			1						2					4			3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15 (1)										
中部																																								
近畿									1 (1)	1 (1)			1	1 (1)	3	2 (1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2									
中国																																								
四国									1 (1)																															
九州																																								
沖縄																																								
海外	1							1 (1)							6 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		
就職先詳細不明																																								
合計	12 (1)	6 (3)	5 (1)	2 (1)	49 (10)	22 (6)	5 (1)	45 (6)	12 (4)	2 (1)	29 (5)	14 (4)	9 (1)	20 (4)	21 (2)	13 (3)	266 (63)																							

※ () は女子で内数

* : ◇水産科学研究科修了者を含む。
 ◇環境科学研究科修了者を含む。
 ◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
 ◇農学院には、農学研究科修了者を含む。

(キャリアアセンター)

平成20年度科学研究費補助金部局別決定一覧 (最終)

(金額単位：円)

Table with columns for department (部局), research type (区分), and various funding categories (特別推進研究, 特定領域研究, etc.) with sub-columns for number of items and amount.

※他大学からの分担金は含まない。他大学への分担金支出分は含む。
※年度内の振入分については、件数を増し、本学受入金額を計上している。年度内転出分については、件数を減し、未執行分を減額している。
※返還分、繰越分については、件数・金額ともに減していない。

(学術国際部研究協力課)

平成 21 年度科学研究費補助金部局別内定一覧 (5月末日現在)

(金額単位:円)

Table with columns: 部局 (Department), 区分 (Division), and various research categories like 特別推進研究, 特定領域研究, 新学術領域研究, etc. Each category includes 件数 (Number of projects) and 金額 (Amount).

(備考) 1 所属局は, 科学研究費補助金研究計画調査提出時の所属局。件数・金額は5月末日までに内定通知のあった内定件数・金額である。(辞退・転出・転入等の変更は反映していない。金額は間接経費を計上していない。)

(学術国際部研究協力課)

〈訂正〉

北大時報No. 662 (平成21年5月) 掲載の「春の叙勲に本学から8氏」新妻篤名誉教授に関する記載に、以下のとおり誤りがありましたので、訂正します。

新妻名誉教授におかれましては、ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

P.1 経歴部分 (誤) 名誉教授 (元 言語文化部教授) → (正) 名誉教授 (元 言語文化部長)

P.12 右欄8行目 (誤) 平成7年から退職までは → (正) 平成3年から退職までは

〈編集メモ〉

▼北海道大学は、今年も8月4日(火)から8月8日(土)の5日間、百年記念会館で「北海道大学 緑のビアガーデン2009」を開催します。美しい緑のキャンパスの夕べを地域のみなさんに開放することにより、本学を身近に感じていただくことを目的としたもので、今年で4回目の開催となります。街中とは異なった雰囲気 of 静かな会場や、北大農場

で収穫された野菜を使ったメニューなどが好評で、親子連れが多いのも特徴です。今年は新たな試みとして、最終日の8日(土)は、午後2時から午後5時まで開催して皆さまをお迎えします。そのほか、詳細については、7月中旬に本学ホームページのトップページ「お知らせ」に掲載予定です。ぜひご来場ください。



2007.05.06 アポイ岳

——— 北の息吹㊦ アポイアズマギク (*Erigeron thunbergii* ssp. *glabratus* var. *angustifolius*) ——

アズマギクの亜種であるミヤマアズマギクの変種でアポイ岳に特産する。超塩基性岩地帯に生える変種の常として、ミヤマアズマギクより厚くて光沢のある葉が特徴である。花の色は白色のものが多い。学名は、アズマギク (*Erigeron thunbergii*) の亜種ミヤマアズマギク (*E. thunbergii* ssp. *glabratus*) の変種 (*E. thunbergii* ssp. *glabratus* var. *angustifolius*) ということになる。

この際、固有名詞はイタリック体で表し、属名は大文字で始まるが、2回目以降は頭文字だけでも表記できる。また、種名以下は全て小文字で表す。亜種 (ssp.) や変種 (var.) という表記は一般名詞なのでイタリック体にはしない。

理事・副学長 岡田 尚武

北大時報㊦ June 2009 No.663

平成 21 年 6 月発行

北海道大学総務部広報課

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/